姫路市立美術館を中核とした文化観光推進拠点計画

目次

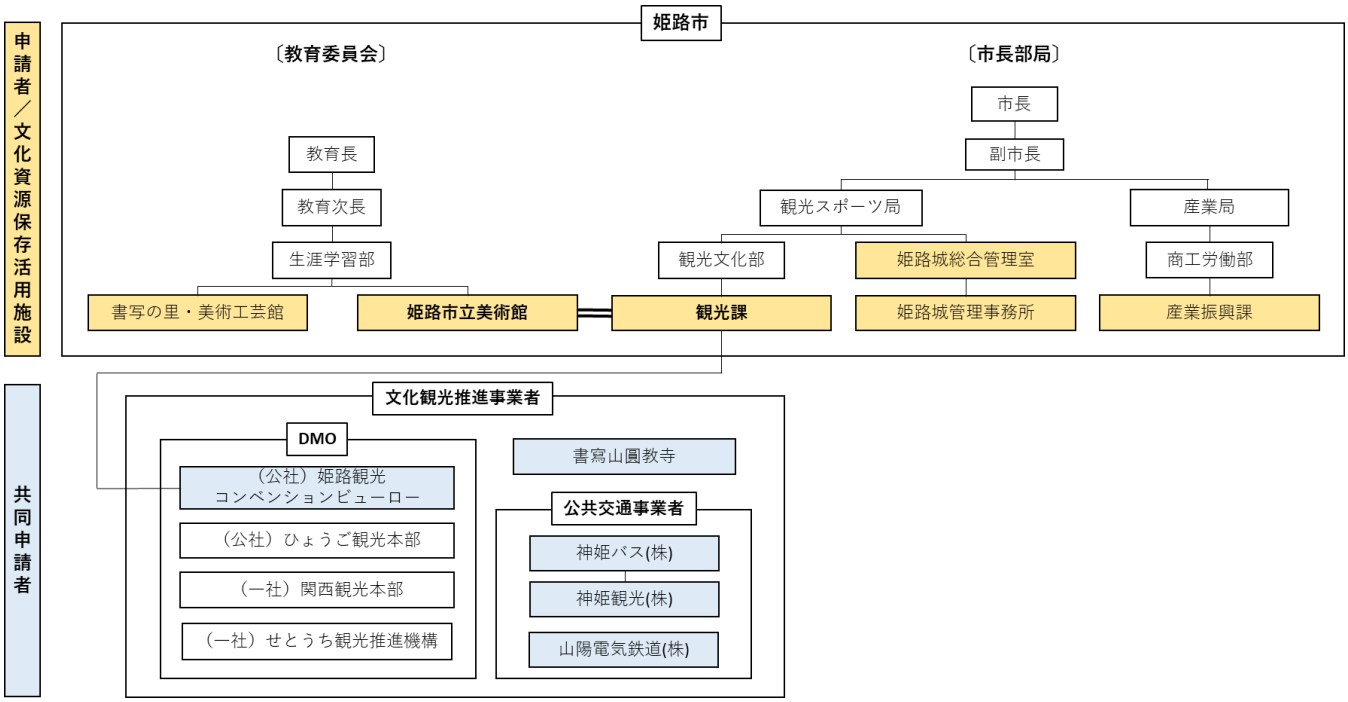
１．実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
２．事務の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
３．基本的な方針
3-1. 現状分析
3-1-1. 主要な文化資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
3-1-2. 来訪客の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
3-2. 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性・・・１２
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出・・・・・・・・・・・１７
４．目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
５．目標の達成状況の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
６．文化資源保存活用施設
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況
6-1-1. 現状の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
6-1-2. 本計画における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
6-2. 施行規則第１条第２項第１号の文化観光推進事業者との連携
6-2-1. 現状の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
6-2-2. 本計画における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
6-3. 施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者との連携
6-3-1. 現状の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
6-3-2. 本計画における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
７．文化観光拠点施設機能強化事業
7-1. 事業の内容
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの
観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業・・・・・・・・３６
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る
文化観光に関する利便の増進に関する事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業・・・・・・・４３
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業・・・・・・・・・・・・・・４４
7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業・・・・・・・・・・・・４６
7-2. 特別の措置に関する事項
7-2-1. 必要とする特例措置の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
7-3. 必要な資金の額及び調達方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
８．計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６

姫路市立美術館を中核とした文化観光推進拠点計画

１．実施体制

<table>
<tr><td>文化資源保存活用施設</td><td>名称</td><td>姫路市立美術館</td><td>所在地</td><td>兵庫県姫路市本町 68 番地 25</td></tr>
<tr><td rowspan="3">申請者
文化資源保存活用施設の設置者</td><td>名称</td><td>姫路市</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>市長　清元　秀泰</td></tr>
<tr><td>地方公共団体内部の役割</td><td colspan="3">【主担当部署】
姫路市立美術館（文化振興）、観光課（観光振興）
【連携する部署】
姫路市書写の里・美術工芸館（文化振興）、姫路城総合管理室（姫路城）、姫路城管理事務所（姫路城）、産業振興課（中心市街地活性化）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">共同申請者①
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>（公社）姫路観光コンベンションビューロー</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県姫路市本町 68 番地</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>理事長　三宅　知行</td></tr>
<tr><td>役割</td><td colspan="3">施行規則第１条第２項第１号の文化観光推進事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">共同申請者②
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>書寫山圓教寺</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県姫路市書写 2968 番地</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>執事長　大樹　玄承</td></tr>
<tr><td>役割</td><td colspan="3">施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">共同申請者③
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>神姫バス（株）</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県姫路市西駅前町 1 番地</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>取締役社長　長尾　真</td></tr>
<tr><td>役割</td><td colspan="3">施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">共同申請者④
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>神姫観光（株）</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県姫路市北条口一丁目 28 番地</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>代表取締役　兵働　忠志</td></tr>
<tr><td>役割</td><td colspan="3">施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">共同申請者⑤
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>山陽電気鉄道（株）</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県神戸市長田区御屋敷通 3 丁目 1 番 1 号</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>取締役社長　上門　一裕</td></tr>
<tr><td>役割</td><td colspan="3">施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者</td></tr>
</table>

２．事務の実施体制



※（公社）姫路観光コンベンションビューローは、現在、観光地域づくり候補法人（候補 DMO 第 19 弾）。
2021 年度中の登録を予定。

<u>事務局</u>

・姫路市立美術館

<u>美術館収蔵品等の魅力発信に関する企画・立案・実施</u>

・姫路市立美術館

<u>姫路市の文化資源を活用したアートプロジェクトに関する企画・立案・実施</u>

・姫路市立美術館
・姫路城総合管理室
・姫路城管理事務所
・書写の里・美術工芸館
・書寫山圓教寺

<u>誘客・周遊等促進に関する企画・立案・実施</u>

・観光課
・（公社）姫路観光コンベンションビューロー
・産業振興課
・神姫バス（株）
・神姫観光（株）
・山陽電気鉄道（株）

３．基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

１．姫路市立美術館建物【 国登録有形文化財 】

姫路市立美術館の建物は、1905 年（明治 38 年）に陸軍倉庫として陸軍省技官の宮本平治・井田熊吉の設計により、姫路陸軍兵器支廠（後、第十師団兵器部）の西倉庫として建てられ、1913 年（大正 2 年）被服倉庫が増築されたものである。戦後は、1947 年（昭和 22 年）より姫路市役所に転用され、市民に愛された。1980 年（昭和 55 年）、市役所移転に伴い美術館に転用することとなり、煉瓦造りの外壁を保存維持して内部をリニューアル。1983 年（昭和 58 年）、主に近現代美術を収集展示する「姫路市立美術館」が博物館法下の登録博物館として開館した。リニューアル時には環境色彩 10 選、公共の色彩賞を受賞。2003 年（平成 15 年）には「姫路城の一角にあって、姫路市の近代の歩みを示す建物として親しまれ」、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」としての評価により、国の登録有形文化財に登録され、名実ともに近代文化の象徴となり現在に至る。

２．文化遺産が織りなす唯一無二の景観

姫路市立美術館の庭園内にはフランス近代彫刻の巨匠・ブールデルによる≪モントーバンの戦士≫（建物が軍事施設であったことを象徴している。）をはじめとした 13 点の彫刻作品が設置されており、この庭園からは世界文化遺産・国宝「姫路城」、国登録有形文化財「姫路市立美術館」、そして彫刻作品の置かれた美しい「庭園」が三位一体となった、全国的に見ても稀有な景観を望むことができる。令和２年度より、「庭園アートプロジェクト」と題して歴史と美が重層的に融合したこの景観そのものをアート作品として創造・発信する取組を本格的に開始している。（令和２年度は兵庫県指定伝統工芸品「明珍火箸」の響をテーマにした音と光のインスタレーションを庭園に設置し、夜間開館も実施した。）

姫路市立美術館前景

庭園アートプロジェクト「たまはがねの響」
（令和 2 年 7 月 4 日～8 月 30 日）

３．姫路市立美術館の理念と収蔵品

（1）美術館のコンセプトとポリシー

A［目的］優れた美との出会いの場としての美術館活動の展開を基本とする。

① 多くの名品を収蔵して常時展覧する（名画展示する常設展示室、無料のコレクションギャラリー）
② 国内外の優れた作品による美術展を企画し開催する（年 4 本の特別企画展）
③ 美術展企画・開催のための調査研究活動を行う（収集保存・企画展示・教育普及の研究会）
④ 新しい美術の動向を先取りし今後の展開を図る（オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト）

B［基本姿勢（運営ポリシー）］世代を超えて親しまれ、気軽に訪れることができる心のオアシスとして、市民とともに成長発展していく。

① 市民に親しまれ、開かれた美術館に（ボランティア教育、友の会活動）
② 郷土の美術文化の振興と発信の場に（姫路市美術展［公募］）
③ 国際的な美術文化の交流の場に（オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト）

（2）収蔵品

A 収集方針

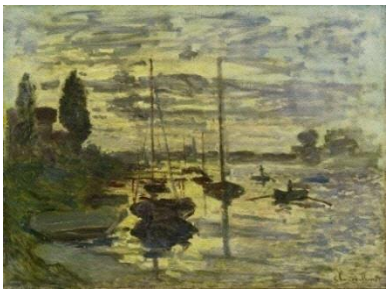
① 郷土ゆかりの美術家の優れた作品及び郷土の歴史・風物等に関する美術作品

② 日本の近現代美術

③ ベルギーなど海外の近現代美術

B 収蔵品数（令和3年2月末現在）

日本画	洋画等	版画	水彩素描	彫塑・立体等	工芸品		デザイン	計
					刀剣	東山焼		
320	830	1,665	1,015	131	21	9	591	4,582



クロード・モネ
≪ル・プティ＝ジュヌヴィリエにて、日の入り≫
1874年（國富奎三コレクション）

フェルナン・クノップフ
≪女性習作≫1900年頃

和田三造
≪新聞を読む男≫1909年頃

オーギュスト・ロダン
≪私は美しい≫1882年
（国富奎三コレクション）

酒井抱一
≪集外三十六歌仙≫より紹巴　江戸末

東山焼
≪染付祥瑞写共蓋水指≫　江戸末

≪刀 銘 大和大掾藤原氏繁作　於播陽姫路城下手柄山麓≫
江戸時代（18世紀中頃）

4．姫路の二大文化資源

（1）姫路城（世界文化遺産・国宝）

姫路城

江戸時代以前に建築された天守が残る現存12天守の一つ。天守群を中心に、櫓、門、土塀等の建造物や石垣、堀などの土木建築物が良好に保存され、防御に工夫した日本独自の城郭の構造を最もよく示した城であること、その美的完成度が我が国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類のない優れたものであることなどから、1993年にユネスコの世界文化遺産（文化遺産）登録。

（2）書写山圓教寺（多数の国指定重要文化財）

書寫山圓教寺

966年に性空上人によって開かれた天台宗の別格本山。
「西の比叡山」と称され、西国三十三霊場の第二十七番札所でもある。
映画「ラストサムライ」のロケ地としても知られる。
国指定重要文化財の建造物をはじめ多数の美術工芸品を所蔵。
令和元年日本遺産認定「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～」

3-1-2. 来訪客の動向

過去5年間の来館者数の推移

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
常設展	期　間	305日	303日	304日	135日	260日
	入場者	49,339人	43,161人	36,387人	10.271人	83,573人
特別企画展	期　間	218日	235日	264日	69日	219日
	入場者	65,811人	52,553人	50,096人	6,168人	152,480人
合計		115,150人	95,714人	86,483人	1,6439人	236,053人

市政の概要より

令和元年度企画展における来館者の年齢層

カタルーニャ美術の精華　奇跡の芸術都市　バルセロナ展（2019年6月29日～9月1日）										
年代	90代	80代	70代	60代	50代	40代	30代	20代	20未満	無回答
人数（割合）	1（0.5%）	5（2.7%）	23（12.6%）	41（22.5%）	43（23.6%）	25（13.7%）	12（6.6%）	11（6.0%）	11（6.0%）	10（5.5%）

ストラスブール美術館展　印象派からモダンアートへの眺望（2019年11月12日～2020年1月26日）										
年代	90代	80代	70代	60代	50代	40代	30代	20代	20未満	無回答
人数（割合）	0（0%）	2（2.0%）	18（17.6%）	18（17.6%）	24（23.5%）	9（8.8%）	7（6.9%）	4（3.9%）	10（9.8%）	10（9.8%）

来館者アンケートより

例年ベースでは、姫路市立美術館の来館者は８０千人から１００千人程度で推移しているが、令和元年度は、「生誕１２０年　文豪川端康成と美のコレクション展」において、初めて国指定重要文化財（国宝）の絵画を展示し、また、「チームラボ　世界は暗闇からはじまるが、それでもやさしくうつくしい」が好評であったため、昭和５８年４月に開館以来、年間来館者数の最多記録を更新したものである。なお、平成 30 年度は約半年以上の改修休館があったため、来館者数が少なくなっている。

姫路城入城者数

区分	入城者数	うち、日本人	うち、外国人
平成27年度	2,867千人	2,561千人	306千人
平成28年度	2,112千人	1,747千人	365千人
平成29年度	1,824千人	1,480千人	344千人
平成30年度	1,590千人	1,203千人	387千人
令和元年度	1,548千人	1,153千人	395千人

圓教寺来訪者数

区分	入山者数
平成27年度	275千人
平成28年度	227千人
平成29年度	217千人
平成30年度	251千人
令和元年度	222千人

姫路市観光案内所での外国人観光客対応者数

区分	外国人対応者数	外国人対応者数上位１０か国（地域）（人）									
		１位		２位		３位		４位		５位	
平成27年度	26,370人	台湾	6,606人	タイ	1,228人	韓国	1,192人	中国	1,151人	アメリカ	1,144人
平成28年度	23,868人	台湾	4,419人	フランス	1,343人	アメリカ	1,179人	スペイン	1,174人	タイ	1,056人
平成29年度	28,489人	台湾	4,287人	フランス	1,819人	アメリカ	1,539人	スペイン	1,382人	オーストラリア	1,361人
平成30年度	27,591人	台湾	2,601人	フランス	2,334人	スペイン	1,711人	アメリカ	1,604人	オーストラリア	1,486人
令和元年度	25,631人	台湾	2,352人	フランス	2,008人	スペイン	1,778人	アメリカ	1,696人	オーストラリア	1,424人

区分	外国人対応者数上位１０か国（地域）（人）										参考
	６位		７位		８位		９位		１０位		日本人
平成27年度	香港	1,130人	フランス	1,087人	スペイン	1,022人	オーストラリア	979人	シンガポール	512人	76,559人
平成28年度	オーストラリア	1,000人	中国	988人	韓国	861人	香港	692人	イタリア	571人	47,802人
平成29年度	タイ	1,356人	中国	1,018人	韓国	1,013人	香港	823人	イタリア	713人	51,446人
平成30年度	中国	1,246人	タイ	1,012人	イタリア	998人	ドイツ	874人	韓国	831人	55,699人
令和元年度	中国	1,309人	イタリア	981人	ドイツ	893人	タイ	892人	イギリス	844人	64,249人

平成３１年度・令和元年度姫路市入込客数・観光動向調査報告書より

姫路城の外国人観光客数（入城者数）は３９万５千人で、平成３０年度と比べ８千人（２．１%増）増加し、平成２９年度以降増加傾向となっている。言語別でみると、英語圏、フランス語圏が順調に増加しているが、中国語圏、韓国語圏は減少している。

また、姫路市観光案内所での外国人観光客対応者数は、国（地域）別の傾向として、上位の国（地域）は、平成３０年度とほぼ同様の傾向となっており、台湾が最も多い。また、アジア圏観光客への対応割合がやや減少傾向にあるのに対し、フランスやスペイン、アメリカ、オーストラリアといった国々が上位を占めるなど、全体的に欧米豪からの観光客への対応割合が増えている。

増加傾向にあった外国人観光客も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大きく減少しているが、今後、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、観光推進課及び姫路観光コンベンションビューローによるインバウンド施策と連携し、欧米豪を中心に、アジアを含めた外国人観光客を美術館へ誘導する方策等に取り組んでいく。また、複数言語による美術館案内パンフレットを作成し、使用状況による外国人来館者数の把握、外国人入館者のニーズの調査に努めていきたい。

国内観光客については、現代アートを軸にした領域横断的プロジェクトを展開することで、これまでの企画展での中心層であったシニア層のみならず、20～40 代の比較的若い世代の来館を促していく。（参考：瀬戸内国際芸術祭 2019 の来場者のうち、20～40 代は全体の 63.9%を占める。）また、昨年度実施アンケートの結果によると、来館者の居住地は兵庫県が約６０%、大阪府が約１７%、京都府が約２%、兵庫県内のうち、姫路市は約３３%、神戸市は約１９%となっていることから、文化観光推進事業者との連携により京阪神からの来館者の増加を図るなど、来館者のエリアを本市周辺から徐々に広げていく。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

姫路市の他の文化資源保存活用施設のうち、最も代表的であり、かつ姫路市立美術館に隣接した姫路城との比較を通じて姫路市立美術館の強みと弱みを以下に記載する。

強み

姫路市立美術館と姫路城は姫路市は、兵庫県の南西部に位置し、広大な播磨平野を中心に、北は中国山地、南は瀬戸内海の島々にかけて広がり、古くから交通の要衝として、播磨地方の政治・経済・文化の中心地として５３万人の人口を有する中核都市として発展してきた。

本市へは、JR 新幹線を利用すると新大阪駅から姫路駅まで約３０分、岡山駅から姫路駅まで約２０分、また、JR 在来線を利用すると JR 三ノ宮駅から最速で約４０分と京阪神から非常にアクセスが容易である。また、中国自動車道、山陽自動車道、播但連絡道路等の高速道路網も整備され、スムーズに姫路城周辺エリアへアスセスすることができる。（昨年度実施来館者アンケート結果：JR 又は私鉄（山陽電鉄）利用約 47%、車利用約 26%）姫路市立美術館へは、JR 姫路駅から路線バスで約８分、徒歩で約２０分と非常に立地条件に恵まれており、隣接する姫路城と共通する大きな強みと考えている。

姫路城との比較において姫路市立美術館が独自にもつ強みとしては、景観が挙げられる。無料で開放された美術館前庭からは姫路城を借景として国登録有形文化財である姫路市立美術館の建物を一望することができる。また、姫路市立美術館は洋の東西を問わず近現代の美術作品を収蔵し、アートの切り口によって有形無形の文化や歴史などあらゆるテーマを取り扱うことができる点に大きな特徴がある。

弱み

「平成３１年度・令和元年度　姫路市入込客数・観光動向調査報告書」によると、姫路城周辺地域に位置する施設の入込客数で比較すると、姫路城の１，５４８千人をトップに、好古園４２８千人、動物園４２０千人、姫路市立美術館２３６千人、姫路文学館９５千人、歴史博物館９０千人となっている。来訪客の動向で記載したとおり、約７か月の改修休館があった平成３０年度とチームラボ展の好評により過去最高入館者数を記録した令和元年度を除く例年ベースでは、美術館の入場者は８０千人から１００千人程度で推移している。

つまり、美術館は年間１，５４８千人もの来訪者を迎える姫路城に隣接しているにもかかわらず、例年ベースでその１割も集客できていないということである。また、姫路駅及び姫路城から離れているにもかかわらず、年間約２２２千人の来訪者を数える圓教寺と比較しても集客数は３分の１程度に留まっている。これまで姫路城及び圓教寺への来訪者と美術館入館者の来訪ニーズが異なるとの見地から積極的に美術館へと誘導する取組を行ってこなかったことが一因であり、強みであるはずの立地条件を活かしきれていない。これは、市内文化資源保存活用施設に共通した傾向である。このことは、姫路市の豊かな文

化資源の魅力や存在が十分に認知されていないことに起因する。

3-2. 課題

課題１　展示・所蔵品の魅力を伝え理解を深める解説の充実

現在、姫路市立美術館では一部のコレクションを除き音声ガイド・解説ツールの運用を行っておらず、基本的にはキャプションと作品リストのハンドアウトのみによる解説となっている。また、企画展示においては巡回展の場合等に音声ガイドを導入するケースはあるものの、独自企画においては常設展示・コレクション展示と同様の対応となっている。新型コロナウィルス感染症拡大予防にも配慮しつつ、来館者が展示作品について理解を深めることのできる環境の整備が必要とされる。

また、多言語化についても、館内案内は五か国語（英語・中国語（繁体・簡体）・フランス語・スペイン語・韓国語）としているが、キャプション及び作品リストは英語（一部フランス語）のみであり、解説とともに充実が急がれる。現時点で、常設展示室の作品約 30 点と庭園に常設している彫刻作品 13 点については英語版を含めた音声ガイドを作成済みであるが、再生機器などの設備が未整備である。これらの活用も見据えた解説ツールの作成と運用が課題である。

課題２　質の高い文化財の展示と環境整備

姫路市立美術館は世界文化遺産・国宝姫路城の特別史跡地内に所在し、建物は国登録有形文化財であることから、そこで恒常的かつ安心安全に国指定重要文化財を展示することができれば、「３重の文化財活用」として全国的に見ても極めて稀有な文化資源保存活用施設としての存在感を高め、文化観光の拠点として象徴的な役割を果たすことができる。

しかしながら、当館は国指定重要文化財を所蔵していないため、その展示にあたっては、文化財保護法第 53 条に基づく文化庁長官からの許可を得た上で、他の所蔵者から借用する必要がある。そのためには、当館がソフト（スタッフ・管理体制）・ハード（施設設備）ともに高い機能を有していることが求められるが、開館から 35 余年が経過したことにより空調設備をはじめとした老朽化が深刻であった。このことから、平成 28 年度より文化庁の指導を仰ぎながら「環境改善事業」を立ち上げ、保管・展示に関わる喫緊の課題解決を最優先とした施設設備の改良に順次取り組んでいる。その成果のひとつが、令和元年度に開催した「生誕 120 年 文豪川端康成と美のコレクション展」における池大雅・与謝蕪村《十便十宜図》の借用公開であった。これは、姫路市として初となる国指定重要文化財（国宝）絵画の展示となった。

「３重の文化財活用」を今後も継続していくためには、形状や容量ともに多様な国指定文化財級作品をはじめとする多様な借用作品はもとより、所蔵品を安心安全に保管・展示するための施設整備を引き続き推進していかなければならない。これまで短期的に実施してきた緊急的な改修では十分に措置できなかった、不足している所蔵品収蔵施設の確保、防災・防犯・空調の中央監視システム化などの課題を、中長期的な視点に立って計画的に解決していく必要がある。

課題３　庭園の活用強化

姫路市立美術館の正面玄関前には、市の保存樹であるアキニレやケヤキなどの高木樹が木陰をつくる美しい芝生の庭園がある。当館のコレクションである 13 点の彫刻作品も設置されたこの庭園は無料で開放されており、夜間になると毎日ライトアップされる姫路城と姫路市立美術館を一望することができる。

美術館の象徴としてのみならず、姫路城という姫路の文化資源を代表する象徴的な景観を形成し、かつ美術館周辺を往来する人々の目にも触れやすいこの庭園は、特別史跡地内に所在するがゆえの諸制約からこれまで積極的に活用されてこなかったことから、その文化的・観光的価値を改め

て捉えなおし、美術館はもちろんのこと、市の観光部局や観光事業者も含めた活用を強化していくことが必要である。

課題４　訴求力の高い新たなアートコンテンツの開拓

姫路市立美術館には日本・西洋の質の高い所蔵品があり、とりわけフランス近代美術及びベルギー美術については全国的に見ても有数の質と量を誇る。また、例年 4 回実施している企画展示においても、洋の東西を問わず、多様な時代、絵画・デザイン・工芸など様々なジャンルをテーマにした鑑賞機会を提供しており、美術愛好家からの支持を得ているところである。

しかしながら、これからの美術館は狭義の「近現代美術」のみならず、あらゆるジャンルを横断して地域の歴史や文化・暮らしにも根差したアート活動の展開を図っていく必要がある。姫路市が擁するあらゆる文化・歴史・観光資源を包含し、これまで以上に多くの人々の関心に応える幅をもった新たな切り口によるアートコンテンツは、姫路市全体の観光振興につながる魅力的な観光コンテンツにもなる。

課題５　観光の推進

姫路市には、世界文化遺産・国宝姫路城をはじめとする数多くの歴史資源のほか、地域に息づく行事や祭礼などの多様な資源があり、独自の文化圏を形成している。また、観光は、裾野の広い分野といわれており、人やものの交流を生み出す本市の経済活性化と都市成長に欠かせない分野であることから、今後も一層の観光推進を図る必要がある。

具体的には、

１　滞在型観光の推進

本市は、姫路城の高い認知度を活かした観光施策の展開や、市外からの良好な交通アクセスなどにより、国内外から多くの観光客で賑わっているが、観光客（日本人）の旅行形態を見ると、日帰り７９．６%、宿泊者のうち市内宿泊者は４９．２%となっており、観光客全体の１０．０%が、市内宿泊を伴う観光客となっている。（平成３１年度・令和元年度観光動向調査報告書より）

経済効果の高い宿泊観光客を増やすためには、姫路城を中心に、「姫路城プラスワン」をテーマに、周辺の観光地はもちろん、食や体験などの多様な要素をともに観光資源として活用するなど、長く滞在していただける仕組みづくりや魅力ある観光地の形成が必要である。

２　インバウンド観光の推進

国では、観光立国の実現に向けた観光プロモーション施策を充実させており、新型コロナウイルス感染症感染拡大前までは、訪日外国人観光客が増加するとともに、東京や京都、大阪などを巡るいわゆるゴールデンルートから、地方へ分散化も進んでいた。

本市への外国人観光客は、他都市と比較して、欧米の国の比率が高い傾向にある。日本を象徴するコンテンツである姫路城を中心に、日本文化への興味がより深い国々からの観光客に好まれる観光都市であることを踏まえ、歴史や文化、自然、食など、観光の大事な要素を十分楽しんでもらえる取り組みを進めるとともに、日々変化する観光客のニーズをしっかり分析し、広域の関係団体と一体となった観光プロモーションを展開していく必要がある。

３　MICE の推進

令和３年９月に、本市中心部に新たに姫路市文化コンベンションセンター（アクリエひめじ）が開館するとともに、手柄山周辺施設など、新たな施設整備が進んでいる。また、開催地へ高い経済効果を与える MICE 誘致・開催の気運が高まっており、受入環境の充実が求められている。

４　観光客の受入体制の充実

国内では、インバウンドの増加に伴い、言語や制度に不慣れな外国人観光客が災害・事故に遭

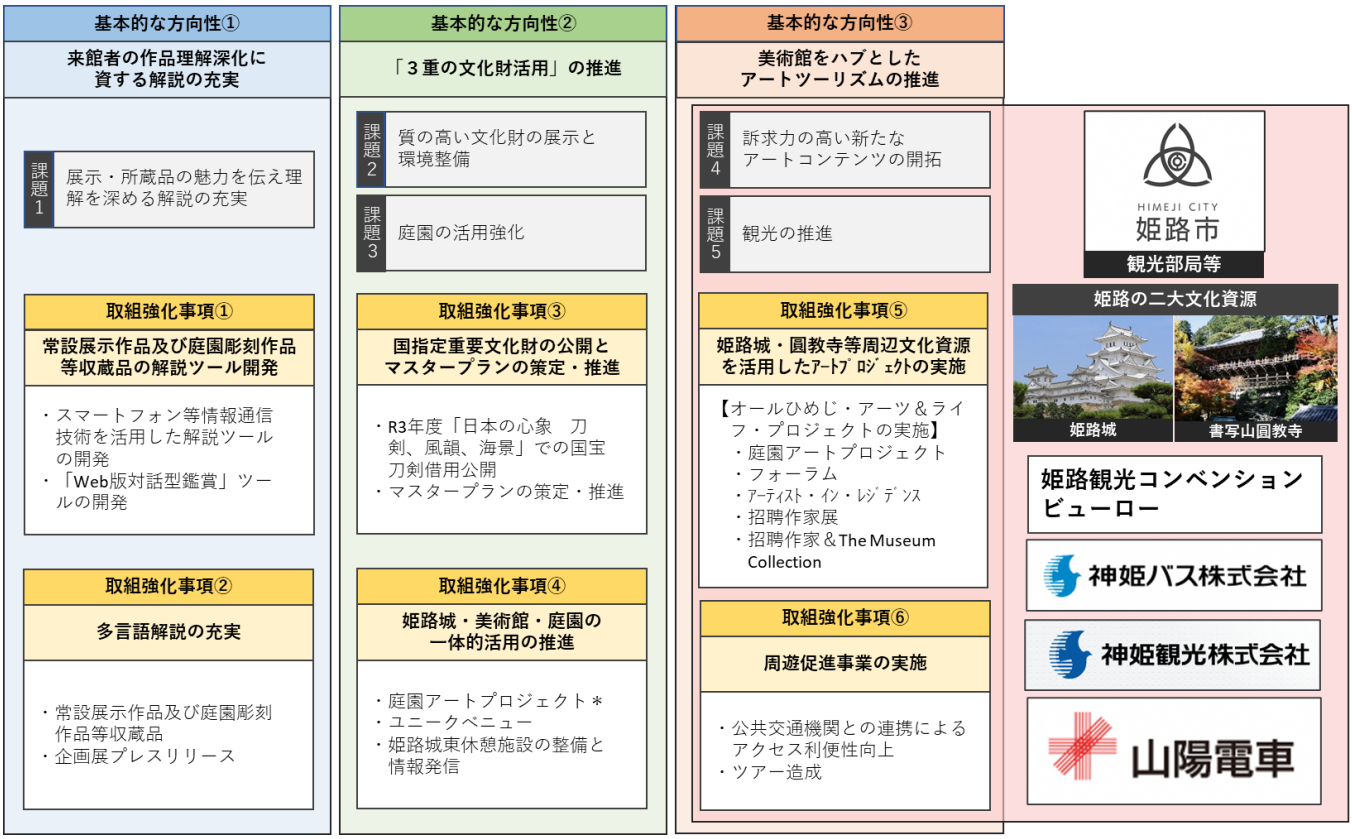
遇し、また、急病やケガをする事例が発生している。

外国人観光客だけではなく、高齢者や障害者を含め、観光客が円滑で快適に観光を楽しむことで、本市を訪れた観光客等に「来てよかった」「また来てみたい」と感じていただくため、観光地としての魅力に合わせ、心地よく快適に滞在できる環境づくりが求められている。

５　アフターコロナに向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光客が大幅に減少し、観光産業が深刻な影響を受けている。市民生活や経済活動への影響を注視しつつ、新たな観光のあり方について、検討を進めていく必要がある。

3-3.　文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性



基本的な方向性

１．来館者の作品理解深化に資する解説の充実【課題１関係】

２．「３重の文化財活用」の推進【課題２・３関係】

３．美術館をハブとしたアートツーリズムの推進【課題４・５関係】

取組強化事項

１．常設展示作品及び庭園彫刻作品等収蔵品の解説ツール開発【課題１／方向性１関係】

（１）スマートフォン等情報通信技術を活用した解説ツールの開発

姫路市立美術館の収蔵品約 4,600 点について、展示の機会を捉えて順次作品解説を作成し、スマートフォンでの使用を前提とした配信型ツールでの運用を行う。解説内容は、作品の主題や由来、時代背景に加えて高精細画像も参照できるようにし、子供や若い世代、外国人旅行客など専門知識の有無にかかわらずあらゆる来館者層にとって親しみやすく理解できるものにする。

① 常設展示室：フランス近代美術の優品約 30 点。英語翻訳もされた作品解説を作成済。

② 庭園　　：西洋・東洋の近代彫刻 13 点。英語翻訳もされた作品解説を作成済。

③ コレクションギャラリー：年 4～5 回のコレクション展の際に出展作品について解説を作成。

（２）「Web 版対話型鑑賞」ツールの開発

展示作品の横に掲示した QR コードから、来館者が作品を鑑賞して思ったことや感じたことを自由にコメントできるサイトにアクセスし、かつ作品ごとに他の来館者のコメントも参照できるようにする。これは、いわば「自発的対話型鑑賞」の Web 版と言うべきものであり、時空を超えて来館者同士の共感を誘発することにより、鑑賞の深化や質の向上、ひいては作品の多様な価値の共有と寛容性の醸成を企図する装置である。また、美術館にとっても、通常把握することが難しい来館者の「生の声」を集積することにより、企画の立案等に活かせる大きなメリットがある。

２．多言語解説の充実【課題１／方向性１関係】

（１）常設展示作品及び庭園彫刻作品等収蔵品

国登録有形文化財である姫路市立美術館建物の歴史的・文化的価値や収蔵品、展示についての解説等を多言語化する。多言語化作業は、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に依拠して行うものとし、姫路市の外国人観光客のなかで高い割合を占める台湾（中国語）、フランス（仏語）、スペイン（西語）、アメリカ（英語）を優先的に整備する。

（２）企画展プレスリリース

「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」のプレスリリースを、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に依拠して多言語化する。このプロジェクトは、世界でも活躍する第一線の現代アーティストが参画するものであり、かつ姫路城・圓教寺という外国人観光客が高い関心を寄せる文化資源を扱うものであるため、開催予告に留まるものではなく、プロジェクトのコンセプトや取り扱う文化資源の歴史的・文化的価値の概要など、高い知的好奇心を充足させる質を備えた内容とする。

３．国指定重要文化財の公開とマスタープランの策定・推進【課題２／方向性２関係】

令和３年度特別企画展「日本の心象　刀剣、風韻、そして海景」において国指定重要文化財（国宝）である刀剣「明石国行」を展示することをはじめ、文化財保護法第 53 条に基づく国指定重要文化財の借用公開を継続的に行うことで、姫路市立美術館ならではの「３重の文化財活用」を推進する。

そのためのソフト機能強化の一環として、これまで美術館に不在であった刀剣を専門とする学芸員を配置する。令和２年度にベテランの専門学芸員を再任用で配置するとともに、令和３年度には、さらに日本美術を専門とする学芸員を新規採用し、刀剣専門学芸員の人材育成を図っている。

また、ハード機能強化としては、開館 50 周年を迎える 2033 年を目途とした短中期計画として令和３年度に「マスタープラン」を策定し、姫路市の文化・観光振興において当館が果たすべき役割を明確にした運営方針（ミッション）を明らかにした上で、登録有形文化財である当館建物の展示保管機能を維持・向上させ、長期的には公開承認施設を目指すことを視野に入れた施設整備を計画的に推進していく。

４．姫路城・美術館・庭園の一体的活用の推進【課題３／方向性２関係】

（１）庭園アートプロジェクト

美術館の庭園を、館内展示室と並ぶ当館の主要な展示空間のひとつと捉えるとともに、世界文化遺産・国宝姫路城、国登録有形文化財「姫路市立美術館」、「13 点の彫刻作品が置かれた庭園」が三位一体を成す稀有な景観そのものを作品化する。

本プロジェクトは令和２年度に既に兵庫県指定伝統工芸品である「明珍火箸」の奏でる音色をテーマとした「たまはがねの響 音と光のインスタレーション」（令和 2 年 7 月 4 日～8 月 30 日／10 月 30 日～11 月 15 日）として実験的に実施をしている。視覚芸術に限らない領域横断的な展示・創造を行うことで、これまで美術館にさほど関心のなかった人々の耳目を集めるとともに、20:00

までの夜間開館（通常は17:00閉門）も実施したことで、子供連れや若いカップルを含めた多くのお客様にも楽しんでいただき、来館者によるSNSへの投稿も盛んに行われた。

本プロジェクトは、美術館の展示空間の拡張と新たな創造の機会となるだけでなく、当館が「人々の集う場」として認知・活用される上でも有効である。

（2）ユニークベニュー

姫路市では、観光推進課がMICE誘致の取組のひとつとして「ユニークベニュー HIMEJI プラン」の制度を運用し、姫路市立美術館の庭園もメニューに含まれている。しかし、本制度の周知や、美術館を会場とすることの意義や魅力、利用のしやすさなど、改良の余地は大きい。今後は「庭園アートプロジェクト」や夜間開館等の美術館企画との連携も視野に入れつつ、姫路市観光部局や姫路観光コンベンションビューローとの連携強化のなかで、「ユニークベニュー HIMEJI プラン」の利用促進を含めた幅広い庭園の活用に向けた企画立案及び誘致活動を行う。

（3）姫路城東休憩施設の整備と情報発信

姫路城と姫路城周辺の施設を結び付け、周遊性を向上させ、エリア全体の魅力をアップさせることを目的に、姫路市立美術館に隣接して休憩施設を整備する。

休憩施設には、①姫路城の景観を楽しむ機能、②飲食等を楽しむ機能、③情報発信機能をもたせ、姫路市立美術館は姫路市の文化観光拠点として質の高い文化情報の発信に向けた連携を行うとともに、企画展示等に因んだ物品や飲食メニューの開発を目指す。

５．姫路城・圓教寺等周辺文化資源を活用したアートプロジェクトの実施

【課題４・５／方向性３関係】

姫路を語るにあたり、世界文化遺産・国宝姫路城と、“西の比叡山”とも称される高い寺格をもつ「書寫山圓教寺」は、その質と量及び知名度において、他の追随を許さない存在である。これら「姫路の二大文化資源」は姫路市立美術館と地理的に近接しているだけではない。例えば、かつての姫路藩主にして姫路城主であった酒井忠似の実弟は江戸琳派の代表的画家のひとりである酒井抱一であり、当館は抱一の作品を所蔵している。また、圓教寺は建造物・彫刻・絵画の国指定重要文化財に加えて「書写塗」（漆器）と呼ばれる無形文化財を擁している。これらは美術館にとっても調査研究の対象となるものであり、その豊かな歴史と文化により、アーティストにとってもインスピレーションの宝庫となる大きな可能性を秘めている。

このことから、姫路市では姫路市立美術館が中心となって姫路城・圓教寺をはじめとした姫路市のあらゆる文化資源を射程に収めたアートプロジェクトを展開することで地域に根差した美術館としての活動を充実させる。これが、まさに姫路におけるアートツーリズム形成の契機となって文化観光の充実をもたらす。この取組の柱として、姫路市の主要施策という位置づけによる新規事業「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」を４カ年計画で実施する。

本プロジェクトにおいては、現代を代表するアーティストたちがこれら姫路の文化資源をテーマにした制作や展示を行うことで姫路の文化の新たな価値や魅力を再創造するだけでなく、地域住民や企業等にも向けたワークショップやレクチャーを通じて姫路に根差したアートを親しみやすく普及する取組も行う。また、アーティスト・イン・レジデンスにおいては圓教寺を拠点としつつ、美術館以外の場所での作品制作（公開制作を含む）やサテライト展示等を積極的に展開し、それらの活動の集大成となる展示が美術館で開催され、またその成果を発信することで、姫路市全域が姫路市立美術館を核とした「アートの生成する場」となることを目指す。

さらに、この一連のプロジェクトに、招聘アーティストが姫路市立美術館の収蔵品をテーマにしたコレクション展を通常のコレクション展とは別の企画展として組み込むことで、姫路市全体の文化資源のなかに姫路市立美術館が収蔵する近現代美術作品を位置付け、新たな視点でのコレクション

の魅力と価値を創造・発信していく。

オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト主要事業

① フォーラム

姫路市立美術館を核としたアートクラスター形成を推進し文化観光拠点としての機能強化を図るためのコア・アーティストによる公開ディスカッションや来場者が自由に参加できるフリートーク、リレーレクチャー等を実施。

	コア・アーティスト	テーマ（仮）
令和3年度	・杉本博司 ・日比野克彦 ・チームラボ ・隈研吾 ・中谷芙二子	姫路の三大建築美の真髄と可能性～姫路城、圓教寺そして美術館
令和4年度		建築と美術と宗教
令和5年度		抱一・其一からチームラボへ　江戸琳派の可能性
令和6年度		負けて勝つ城：建築美の勝利とは何か

② 庭園アートプロジェクト

世界文化遺産・国宝姫路城、国登録有形文化財「姫路市立美術館」、「13 点の彫刻作品が置かれた庭園」が三位一体を成す全国的に見ても稀有な絶景そのものを作品化したインスタレーションを展開する。

	アーティスト	テーマ（仮）
令和2年度	菅野由弘（作曲家） 明珍敬三（鍛冶師）	「たまはがねの響」－音と光のインスタレーション
令和3年度		「日本の心象」展第三章 「たまはがねの響」－音と光のインスタレーション
令和4年度	中谷芙二子	「霧の彫刻　その1：身体との対話」
令和5年度		「霧の彫刻　その2：風景を聴く」
令和6年度		「霧の彫刻　その3：体・音・光」

③ アーティスト・イン・レジデンス

「総合芸術の聖地」（圓教寺執事長・大樹玄承氏）である圓教寺を拠点とし、姫路市の有形・無形の文化資源をテーマとした滞在型制作や現地でのアーティスト・トーク、ワークショップ、インスタレーション、パフォーマンス、公開制作（ワーク・イン・プログレス）等を行い、クリエイティブな活動を通じた固有の価値の磨き上げと新たな価値の創出、ひいては地域社会の活性化につながる観光資源化を目指す。

	招聘作家	テーマ（仮）
令和3年度	日比野克彦	明後日のアートの学校 ⇨ 町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト
令和4年度	杉本博司	寺院空間と現代美術　特別企画公演
令和5年度	チームラボ	総合芸術の聖地にて、超主観空間を考える
令和6年度	隈研吾	21世紀版＜生き延びるためのデザイン・ワーク＞：これからの用の美

＊実施は、毎年度四季を通じて随時

＊実施場所は、姫路市立美術館と圓教寺を拠点とする

④ 招聘作家展

アーティスト・イン・レジデンス招聘作家による企画展。姫路城・圓教寺・美術館を創造眼と批評眼の複眼的アプローチで捉えなおして新たな価値を創出し、五感に訴える強度のある展覧会として展開する。

	招聘作家企画展（招聘作家／テーマ）（仮）	
令和3年度	文化観光拠点施設認定記念特別展「日本の心象：刀剣、風韻、そして海景」	
	日比野克彦	明後日のアート
令和4年度	杉本博司	昨日のアート　昔の現代美術
令和5年度	チームラボ	江戸琳派再考、超主観空間が拓くボーダレスな世界
令和6年度	隈研吾	自然とはなにか－隈研吾の建築美学、22世紀へのパースペクティブ

＊令和7年度以降は、映像、彫刻、音楽、身体表現など多様なジャンルから招聘作家を検討

＊会期は、2～3か月

＊実施場所は姫路市立美術館とする

⑤ 招聘作家&The Museum Collection

招聘作家と美術館学芸員の協働により姫路市立美術館のコレクションを再検証し、招聘作家の作品とのコラボレーションも視野に入れた展開により既存の解釈や価値の更新を試みる。

	招聘作家	展覧会名（仮）
令和3年度	日比野克彦	The Museum Collection meets HIBINO 「展示室で会いましょう」
令和4年度	杉本博司	招聘作家＆The Museum Collection
令和5年度	チームラボ	
令和6年度	隈研吾	

＊会期は2か月程度

＊実施場所は、姫路市立美術館とする

６．周遊促進事業の実施【課題４・５／方向性３関係】

姫路市立美術館を起点として姫路城や書寫山圓教寺をはじめとした姫路市内の文化資源周遊を促進し、「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」を主軸とした文化観光ルートを形成するため、鉄道事業者による広報や美術館入館券付き乗車券の発行等により京阪神等市外からの誘客を図るとともに、バス事業者による市内各路線の特別共通乗車券発行等により市内周遊の利便性を向上させる。

また、民間観光事業者とは宿泊や日帰り、高付加価値なアート体験など様々な要望に応えることのできるツアーの造成を検討・実施するとともに、姫路市観光推進課及び姫路観光コンベンションビューローと連携して JNTO や広域 DMO 等との連携を強化した誘客プロモーションや市内事業者と連携したプロモーションの実施を通じて、姫路市の多様な文化観光資源との総合的な PR や宿泊施設、観光事業者との連携を推進する。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

姫路市立美術館が有する文化資源は、国登録有形文化財である建物と庭園から望む景観、そしてコレクションである。本計画の推進によってこれら固有の文化資源がもつ魅力や意義を伝える解説の充実と新たな見せ方を提案する創造活動を展開することで、姫路市立美術館が「姫路城プラスワン」のひとつとしての存在感を高め、本市における文化観光ルートの柱となることが期待される。

さらに、市の主要政策として実施する「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」は、姫路城と圓教寺という本市の二大文化資源をアートの切り口から捉えなおすものであり、歴史ファンや日本文化に関心をもつ外国人観光客といった従来の来訪者層に加え、新たにアートファンの来訪を促す契機となる。本市の周辺地域では、瀬戸内国際芸術祭（香川県・岡山県）や六甲アーツ・ミート（神戸市）をはじ

めとした芸術祭が盛んであり、国内外のアートツーリストの巡礼の地として定着しているが、これまで姫路市はこうした芸術祭の空白地帯であった。高い知的好奇心をもち、目の肥えたアートツーリストたちの関心を惹くためには、一流のアーティストによる質の高い企画を展開する必要があるが、それを可能とするのは姫路市立美術館をおいてほかにはない。

また、本市における文化観光をアートにより推進する上で、姫路市立美術館の情報発信機能の強化も目指す。姫路市立美術館の前庭に隣接して整備が計画されている姫路城東休憩施設は、姫路城と姫路市立美術館の間に人の流れを生み出す新たな結節点となることが期待される。この周辺環境の変化を捉え、館内や姫路城東休憩施設において各種展覧会や企画、姫路の文化に関する質の高い情報発信を行うことで、姫路市立美術館が本市の文化観光における文化分野のコンシェルジュ的役割を果たしていく。

長期的には、本計画の成功を契機として全市的な地域計画の策定につなげることで、より充実した文化観光の推進に寄与することを目指す。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

姫路市では、新型コロナウイルス感染症の影響により、当面インバウンド需要の回復は見込めない状況の中、主要な文化資源である姫路城については、文化財としての本質的価値と保存に配慮しつつ、観光資源としての持続的活用を目指す方針のもと、文化庁の補助メニューを活用し、精緻な時代考証に基づき、再現した衣装や調度品を活かし、千姫・忠刻や侍のなりきり体験をはじめ、往時の大名行列を実施するなど、歴史的な出来事を再現することにより、姫路城の文化的価値や新たな魅力を創造するとともに、文化財の付加価値を高め、収益の増加等の好循環の創出を目指している。

こうした姫路市の観光施策に加え、本計画においては、姫路市の歴史・文化遺産を現代アーティストによる表現活動という切り口で活用することに、美術館ならではの文化振興の特色がある。「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」で主に取り扱う文化資源である姫路城と圓教寺は、一見すると美術館とは縁の薄いもののように感じられるかもしれないが、本来美術とは人々の暮らしや社会、それにまつわる歴史や文化のなかで育まれてきたものであり、さらに多様化する社会のなかであらゆる事象を領域横断的につなぐのが現代アートの強みである。地域に根付いた固有の歴史・文化に立脚した歴史・文化の再創造は、姫路城や圓教寺の歴史・文化に知的好奇心を寄せる従来の観光客にも十分に訴求する内容となりうることに加え、これまで姫路市の周辺地域を周遊していたアートツーリストを新たな観光客層として取り込むことが可能となる。また、本プロジェクトにおいては毎年度メイン・アーティストが交代することにより、当市の文化資源の魅力や価値が多面的に発信されるとともに、リピート率の向上が期待される。

当市の観光課題のひとつである「滞在型観光の推進」に対しては、庭園アートプロジェクトをはじめとした夜間イベントの展開や姫路城⇔美術館⇔圓教寺をメインロードとした周遊性の向上を通じて姫路市内での滞在時間を延長させ、宿泊者の増加につなげることを目指す。このことと併せ、姫路駅⇔姫路城の商店街や、城下の面影を感じる街並みが残る船場城西地区・野里地区商店街、市内公共交通機関との連携により地域経済への波及効果も図る。

本計画の柱のひとつである「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」が市の観光分野における主要施策に位置付けられたことにより、観光関係部局による施策と一体的に推進されるとともに、姫路観光コンベンションビューローや民間事業者、商店街等とのネットワーク構築を実現する体制が整った。（姫路城及び美術館周辺のまちなか回遊をテーマとした、民間事業者を含めた多様な関係者によるワーキングのなかで、周辺散策マップやモデルコースの設定などを行うことを予定しているほか、令和３年度オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトの主要事業のひとつである「明後日朝顔プロジェクト」（事業番号 1-③・④ 日比野克彦 「明後日のアート」プロジェクト）において、美術館友の会の賛助会員の法人ネットワークも活用し、美術館から北東 500m に位置し城下町の趣を色濃く残す野里地区や市内酒蔵をはじめとした市内各種企業・商店での展示やワークショップ等の実施に向けて具体的に調整を進めている。）姫路市立美術館の企画がコンテンツとして活用されることで観光消費の拡大及び地域経済の活性

化、ひいては市税収入の増加に寄与する。また、「オールひめじ」の文化資源を射程に収めていることで、姫路市立美術館だけでなく、姫路城や圓教寺をはじめとした市内の文化資源保存活用施設の入館料等収入の増加を期待することができる。

MDPP（The Museum Definition, Prospects and Potentials: 博物館の定義、見直しと可能性常任委員会）が提案するとおり、博物館は複数の経済や都市再生と地方の再活性化、そして観光市場等によって支えられた社会基盤の上に成立し、これらに根深く組み込まれている。美術作品の市場価格での購入や展覧会の開催といった基本的な活動もまた、巨視的に見れば、グローバル化が進む社会の中で新たな文化的価値を創出し続けることによるサスティナブルな生産（者）と消費（者）の関係そのものの創出につながる。一見すると自己完結的な作品の修復もまた、修復による作品価値の維持向上のみならず、世界的に見ても高度な日本の修復技術者等の活動を支え、修復の過程で行われる調査による発見等は新たなストーリーを紡いで展覧会の企画につながるといった、多方面にわたる波及効果を生む。本計画は、まずは観光と結びついた波及効果を最大化することを目的としたものであるが、姫路市立美術館がこれまでにない規模で観光部局や民間事業者と連携して計画を策定し推進することの長期的な意義は、こうした従来の美術館の取組を含め、博物館施設が文化的・経済的・社会的に、将来大きな効果を生む可能性を秘めている根拠を社会に示し、自治体・コミュニティ・博物館施設がそれぞれどのように連携すべきかという点を具体的に模索する機会を得て、「よりよい生」に資する価値の生産者としての社会的使命を果たすことにある。

４．目標

目標①：来訪者の満足度（日本人／外国人）（課題１関連、取組強化事項１・２関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）
展示解説ツールの充実が展示品や収蔵品理解の深化につながったか、アンケートの実施により満足度を把握。
従来のアンケートでは、企画展示の満足度（５段階評価）のみの調査であったことから、常設展示と解説の満足度について５段階評価による項目を追加し、上位２評価（「大変良かった」及び「良かった」）の割合を集計するものとする。
目標値の設定にあたっては、現在把握している企画展示の満足度 82%を基本とし、解説アプリの運用を予定している令和 4 年度以降から計画期間中に 10 ポイントの向上を目指すこととする。

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	
目標値（%）	82	82	82	85	88	92	
事業２－①： 解説ツール開発	－	－	・解説内容の制作 ・システム／ツール開発検討	・システム／ツール開発 ・運用開始	・運用	・運用	
事業６－②： 美術館内及び庭園 Wi-Fi 環境整備	－	－	・館内ネット回線の整備仕様検討	・館内 Wi-Fi 環境整備・運用開始 ・庭園 Wi-Fi 環境整備仕様検討	・運用	運用	

目標②：美術館への来館者数（総数）（課題２、３、４関連、取組強化事項３、４、５、６関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）
目標値は、姫路市立美術館の年間平均入館者数約 87,000 人を 10 年間で 1.5 倍の 130,000 人まで増加させることを目指す。ただし、令和３年は新型コロナウィルスの影響による来館者数の減少傾向が継続することが見込まれることから、計画２年目を目途に来館者が復調することを想定した上で、令和 6 年までに 97,600 人の来館者を目標とする。把握方法は入館者実数による。
※平成 25 年度～平成 29 年度までの 5 カ年における年間平均入館者数：87,775 人

（平成25年度：66,640人、平成26年度：74,888人、平成27年度115,150人、平成28年度：95,714人、平成29年度：86,483人）

→　来館者数が極端に少ない平成30年度は約半年以上の改修休館があった年であること、過去最多の来館者数を記録した令和元年度はリニューアルオープン記念展として「チームラボ展」及び「川端康成展」（姫路市として初となる国宝絵画の公開展示）など今後の美術館企画の方向性を示す上での大規模展を開催した試験的な年であること、令和２年度は新型コロナウィルス感染拡大に伴う休館があったことから、これら３カ年については基礎算定には含めない。

年度	実績		目標				
	R1年	R2年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	
目標値（人）	236,053	52,711	69,000	87,000	92,300	97,600	
事業１－①： 庭園アートプロジェクト	－	－	特別企画展「日本の心象」展第３章として「たまはがねの響」を実施。 （7月3日～9月5日）	中谷芙二子「霧の彫刻　その1：身体との対話」（仮）	中谷芙二子「霧の彫刻　その2：風景を聴く」（仮）	中谷芙二子「霧の彫刻　その3：体・音・光」（仮）	
事業１－④： 招聘作家展	－	－	・特別企画展「日本の心象」展 ・日比野克彦展「明後日のアート」	杉本博司展「美の極点を巡る旅：姫路城、圓教寺そして私」	チームラボ展「江戸琳派再考、超主観空間が拓くボーダレスな世界」	隈研吾展「自然とはなにか－隈研吾の建築美学、22世紀へのパースペクティブ」	
事業１－⑤： 招聘作家＆The Museum Collection	－	－	The Museum Collection meets HIBINO「展示室で会いましょう」	杉本博司＆The Museum Collection	チームラボ＆The Museum Collection	隈研吾＆The Museum Collection	
事業１－⑥： 美術館前庭でのユニークベニューの活用	－	－	ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ誘致時におけるＰＲ	継続実施	継続実施	継続実施	

事業３－①： 姫路城入城券の半券提示による特別企画展の観覧料割引制度の導入	－	－	割引制度導入	継続実施	継続実施	継続実施	
事業３－②： 姫路おもてなしクーポンキャンペーン	－	－	美術館参加	継続参加	継続参加	継続参加	
事業３－③： 旅行会社向けクーポン券の発行	－	－	発行開始	継続発行	継続発行	継続発行	
事業３－⑤： 入館券セット乗車券の販売	－	－	山陽電車線での販売開始	・山陽電車線での継続販売 ・他路線での販売検討	・山陽電車線での継続販売 ・他路線での販売検討	・山陽電車線での継続販売 ・他路線での販売検討	
事業３－⑥： 山陽電車案内センター等での美術館入館券の販売	－	－	販売開始	継続販売	継続販売	継続販売	
事業５－②： 展覧会広報強化	－	－	文化観光拠点計画事業に係る広報を専門業者により実施	効果検証を行いながら改善実施	効果検証を行いながら改善実施	効果検証を行いながら改善実施	
事業５－③： アート列車の運行	－	－	日比野克彦展「明後日のアート」会期に合わせて運行開始	継続運行	継続運行	継続運行	

事業５－④： 山陽電車発行沿線情報誌への記事掲載	－	－	１回以上の掲載（A4（見開き A3）2 頁）	１回以上の掲載（A4（見開き A3）2 頁）	１回以上の掲載（A4（見開き A3）2 頁）	１回以上の掲載（A4（見開き A3）2 頁）	
事業６－①： マスタープランに基づく美術館機能強化	－	－	マスタープラン策定	マスタープランに基づく美術館機能強化	マスタープランに基づく美術館機能強化	マスタープランに基づく美術館機能強化	

目標③：美術館への来館者数（外国人）（課題１関連、取組強化事項２関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

現在、美術館では外国人来館者の集計を行っていないため、基礎とする実績は、美術館と同じく姫路城付近に所在する姫路文学館の来館者数に占める外国人の割合実績（平成 30 年度実績 2.26%と令和元年度実績 1.72%の平均）2%とした上で、今後 10 年間で 5 倍となることを目標とする。ただし、新型コロナウィルスの影響により外国人旅行客数が長期間にわたって大幅に減少することが見込まれることから、外国人来訪者数の復調は計画 3 年目と想定し、その後の 7 年間で 8 ポイントの上昇を目指すこととする。把握方法は、来館者受付での集計とする。

※R1 年実績は来館者総数の 2%として推定しているが、来館者総数自体が例年の 3 倍以上であったため、復調年度である R5 年は例年の来館者数 87,000 人の 2%として設定

※R2 年実績については、新型コロナウィルスの影響により例年の半分(1%)と推定

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	
目標値（人）	(4,721)	(580)	690	870	1,740	3,065	
事業２－②： 多言語解説作成	－	－	・英語	・中国語 ・フランス語	・スペイン語 ・韓国語	・活用	

目標④：姫路城・圓教寺等との周遊来館者数（日本人／外国人）（課題４関連、取組強化事項６、７関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 美術館への来館者のうち、来館の前後に姫路城、圓教寺等の市内文化資源及び文化資源保存活用施設を来訪する来館者の割合を来館者アンケートにより把握する。目標値は、新型コロナウィルスの影響により姫路市への来訪者が大幅に減少することが見込まれること、また、来訪者の回復にも数年を要するとの見方もあることから、計画３年目を目途に復調するものと想定し、計画最終年度に令和２年度実績（8%）の２倍（16%）となる17,200人を目指す。							
年度	実績		目標				
	R1年	R2年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	
目標値（人）	11,802	4,375	7,600	10,800	14,000	17,200	
事業１－②： フォーラム	－	－	「姫路の三大建築美の真髄と可能性～姫路城、圓教寺、そして美術館」	「昔も今も建築は美術です」	「抱一・其一からチームラボへ　江戸琳派の可能性」	負けて勝つ城：建築美の勝利とは何か	
事業１－③： アーティスト・イン・レジデンス	－	－	日比野克彦「明後日のアートの学校⇨町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト」	杉本博司「仏教美術と現代美術のコラボレーション展示・特別企画公演」	チームラボ「総合芸術の聖地にて、超主観空間を考える」	隈研吾「21世紀版＜生き延びるためのデザイン・ワーク＞：これからの用の美」	
事業２－③： 姫路城大天守ほか４棟活用環境強化事業及び周辺施設案内強化	－	－	周辺施設案内強化	周辺施設案内強化	周辺施設案内強化	周辺施設案内強化	
事業３－⑦： バス周遊のための企画乗車券の販売	－	－	姫路市立美術館企画展示に合わせて１回以上販売	・姫路市立美術館企画展示に合わせて１回以上販売 ・通年販売の検討	・姫路市立美術館企画展示に合わせて１回以上販売 ・通年販売の検討	・姫路市立美術館企画展示に合わせて１回以上販売 ・通年販売の検討	

事業４－①： 姫路城東休憩施設の整備	－	－	基本計画策定、公募型社会実験実施、文化庁等協議	基本設計、文化庁等協議、発掘調査	実施設計、文化庁本申請	整備工事	
事業４－②： ミュージアムショップでの兵庫県伝統工芸品の販売	－	－	2 品目以上の販売開始	継続販売	継続販売	継続販売	

目標⑤：市内延べ宿泊者数（課題５関連、取組強化事項５、６関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）
市内宿泊事業者に対するアンケートにより、姫路観光コンベンションビューローが把握する市内延べ宿泊者数を目標値とする。
目標値は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、姫路市への来訪者が大幅に減少していること、また、来訪者の回復にも数年を要すものと見込まれることから、計画２年目を目途に復調するものと想定し、計画最終年度に現状の１０％増を目指す。
※ただし、ＤＭＯ登録に係るＫＰＩ設定との整合を図るため、今後目標値を修正する場合がある。
また、Ｒ２実績については申請時点における予想値を記載している。

年度	実績		目標				
	R1 年	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	
目標値(千人)	1,434	972	1,203	1,434	1,505	1,577	
事業３－④： 市内宿泊施設での美術館前売り券販売	－	－	販売開始	継続販売	継続販売	継続販売	
事業３－⑧： 姫路城プラスワン　観光拠点としての姫路市立美術館集客促進事業	－	－	京阪神をターゲットとし、年間300名のツアー参加を目標に実施	継続実施	継続実施	継続実施	

事業３－⑨： 姫路城プラスワン　県外現代美術ファン集客促進　募集型企画ツアーの造成事業	－	－	県外顧客をターゲットとし、年間 300 名のツアー参加を目標に実施	継続実施	継続実施	継続実施	
事業３－⑩： 姫路城プラスワン　YUI PRIMA で行く美術館の魅力再発見 特別な体験	－	－	高品質美術鑑賞ファンをターゲットとし、1 回 15 名×2 回（年間 30 名）のツアー参加を目標に実施	継続実施	継続実施	継続実施	
事業３－⑪： 着地型旅行商品の造成	－	－	１プログラム以上の造成	継続販売	継続販売	継続販売	
事業５－①： 姫路観光コンベンションビューローとの広報連携	－	－	①他地域 DMO 等と連携した観光客誘致活動 ② 旅行会社向け商談会での PR ③ 全国旅行会社への資料送付 ④ 広報媒体の活用（ナビポート、インスタグラム、YouTube、デジタルサイネージ）	継続実施	継続実施	継続実施	

５．目標の達成状況の評価

美術館、書写の里・美術工芸館、姫路城、圓教寺の来場者数について各施設が正確に把握するとともに、姫路城から美術館への来館者数については姫路城と連携した割引制度の実績により把握する。来訪者の満足度等調査については、通年アンケートの実施により日本人・外国人の別を含めて調査する。その他文化観光に関する各種データ等については、姫路観光コンベンションビューローを中心とした継続的な収集・分析を行う。現在、姫路城を中心に観光動向調査やイベント時でのアンケートを通じ、顧客層の把握、施策への反映に努めているが、アーティスト・イン・レジデンス活動等実施など、新たな取り組みも開始することから、より一層、顧客層の把握に努めるなど、マーケティング視点の要素を取り組みながら、施策を展開する。本拠点計画の申請者及び共同申請者で検証評価委員会を組織し、設定した目標の達成状況の評価と改善を毎年度行い、３年後に行う中間評価や計画終了時に向けたＰＤＣＡサイクルによる進行管理を着実に行う。

６．文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

【文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第１条第１項第１号）】

・館蔵品の中から年 100 点程度をテーマに沿って紹介する無料スペースでのコレクション展を実施（年 4 回程度）

・館蔵品を活用し、参加型鑑賞や作家本人によるキュレーションやワークショップの開催などを行う「姫路市民美術塾」を開催（年１回）

・企画展ごとに専門家を招いた講演会や学芸員によるギャラリートークを実施。

・子ども向けに、学芸員による展覧会のギャラリートークを親子参加型で実施。

・季刊の「美術館だより」にて、各展覧会や収蔵品の解説、ワークショップや各種イベントの報告を行い、美術館活動について発信。

・収蔵品カタログを編集・発行し販売。

・研究紀要の発行（年１回）

・所蔵する郷土の作家作品をテーマにしたアートカード（学校教育・生涯学習に活用）の作成

【情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第２号）】

・常設展示については、館蔵品データベースと連携した音声ガイドの内容は作成済みであるが、Wi-Fi 環境及び再生機器等が未整備であるため運用には至っていない。

・コレクションギャラリーや館蔵品を解説・紹介するための情報通信技術を活用した取組は実施できていない。

・企画展示（巡回展）においては、企画によって音声ガイドを導入。

【外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第３号）】

・常設展示室キャプションを多言語（日・英）で表記。

・館内サインを多言語（日・英・仏・中（簡体）・中（繁体）・韓）で表記。

6-1-2. 本計画における取組

【文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第１条第１項第１号）】

・常設展示、コレクションギャラリー展示作品、庭園彫刻等館蔵品について、主題や由来、時代背景等をわかりやすく解説した掲示やハンドアウト、音声ガイド等を提供

・姫路城や圓教寺など姫路の文化資源をテーマにした企画展示

・質の高い文化情報の発信拠点として姫路城東休憩施設を活用（館蔵品や企画展、姫路城や圓教寺の歴史、観光情報や市内周遊のお得な情報発信）

【情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第２号）】

・常設展示及びコレクション展示においてスマートフォンを用いた文字解説と音声解説、高精細画像の表示を通じて作品の主題や由来、時代背景、展示作品と関連した館蔵品紹介などを丁寧に解説したコンテンツの提供

・常設展示及びコレクション展示において QR コードを用いて展示作品についてコメントし、来館者が自由に感想や思いを発信・共有できるアプリの開発

・企画展示においては、収蔵品を活用した「招聘作家＆The Museum Collection」を中心に上記解説整備を実施

・姫路観光コンベンションビューローが運営している姫路の総合観光案内Ｗｅｂサイト「ひめのみち」上においてアーツ＆ライフプロジェクトをはじめとした美術館関連情報についても露出機会を増やす。

【外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第３号）】

・中国語、フランス語、スペイン語、英語についてネイティヴとの協働による解説・紹介の解説

・国内作品を中心にその主題や由来、時代背景等を丁寧に解説し日本文化への理解を深める一助となる解説の作成

6-2. 施行規則第１条第２項第１号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

【文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築】

・なし

【文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析】

・観光推進課や姫路観光コンベンションビューローでは、市内主要施設（姫路城、美術館、書写の里・美術工芸館など）の来館者数や観光動向調査（年４回、姫路城、圓教寺等で実施する対面式アンケート調査）、姫路市観光案内所受付対応者数などのデータを収集、整理・分析し、観光プロモーションを行ううえでの参考としている。

【文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立】

・なし

6-2-2. 本計画における取組

【文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築】

観光地域づくり候補法人（候補 DMO　第 19 弾）で 2021 年度中の登録を目指している姫路観光コンベンションビューローをはじめ、市内観光事業者等とのグループワークによる意見交換の機会を設け、連携して着地型旅行商品の開発・造成や観光プロモーションの展開を目指す。

【文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析】

・観光推進課や姫路観光コンベンションビューローにおいて収集する姫路城入城者数（日本人・外国人）、姫路市観光案内所案内者数（国別）、美術館入館者数、書写の里・美術工芸館入館者数、圓教寺入山者数などのデータを整理・分析する。

＜文化観光の推進に関する目標設定＞

姫路城入城者数（総数）、姫路市観光案内所案内者数（国別）、美術館入館者数、書写の里・美術工芸館入館者数、圓教寺入山者数など

【文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立】

・観光推進課及び姫路観光コンベンションビューローとともに姫路市の観光施策における文化観光の推進及び文化観光の推進における美術館の役割を確認しつつ、共通の方針を策定

・目標達成状況の評価の過程において、姫路観光コンベンションビューローが設定を予定している観光地域づくりのための KPI も参照しつつ、宿泊者数やリピート率など美術館においてもアンケートにより把握が可能な項目については集計・共有し、姫路市全体の観光施策における文化観光の推進に関する事業の方針策定及び本拠点計画の PDCA サイクルの改善につなげる。

6-3. 施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

【文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施】

＜神姫バス㈱＞

・路線バスと書写山ロープウェイとのセット乗車券の発売

・姫路駅周辺エリアへのアクセス性向上のための 100 円運賃区間の設定

・NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」放映に合わせて、路線バス車内アナウンスを活用した路線バス最寄りバス停での黒田官兵衛ゆかりの地紹介

・播磨の酒蔵 22 カ所を路線バスで結ぶスマートフォンアプリの電子乗車券「はりま酒蔵めぐりパス」での周遊と酒蔵での特典（令和 3 年夏頃予定）

＜神姫観光㈱＞

・播磨の魅力再発見ツアー企画実施（近代建築をめぐる旅として姫路美術館とも連携　令和２年 12 月～3 月）

・はりまの酒蔵めぐりツアー　平成 26 年より随時

・バスガイドによる地元観光施設やお店など紹介する Hyogo ナビに投稿。　令和 3 年 3 月 15 日

・姫路港賑わいフェスティバルへの参加協力。平成 31 年・令和元年

・地域活性のため　姫路城改築記念など地方巡業「大相撲姫路場所」の開催

＜山陽電気鉄道（株）＞

・NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」放映に合わせて、京阪神の私鉄各社と共同で乗車券とドラマ館入館券をセットし販売した。また、「官兵衛スタンプラリー」を姫路から京阪神エリアまでの広域において実施し、観光客の往来を図った。

・NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」放映に合わせて、姫路から阪神大阪梅田までを運行する山陽電車車両 6 両 1 編成を装飾列車「軍師官兵衛」号とし、１年間、1 日 5.5 往復の運行を行い、姫路市内だけでなく、神戸、大阪方面まで広く PR を行った。

・はりまの酒蔵めぐり企画において、イベント貸切列車「お酒列車」を運行し、播磨のお酒を PR した。

6-3-2. 本計画における取組

【文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施】

＜書写山圓教寺＞

・アーティスト・イン・レジデンスの実施

・姫路城、美術館等と関連した情報の掲示・発信

＜神姫バス㈱＞

・姫路駅⇔姫路城⇔美術館⇔圓教寺をメインルートとした市内周遊促進のための共通乗車券の発行等の交通利便性向上に向けた取組及び広報連携

・西日本初導入のＦＣＶ（燃料電池バス）車両を活用し、主に土日祝に姫路駅～書写山ロープウェイ間の観光アクセス便として運行

・プロジェクト連携したラッピングバスの運行

＜神姫観光㈱＞

・「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」企画や美術館での夜間・早朝観覧、学芸員による特別解説といったコンテンツを組み込んだ市外からの日帰り・宿泊ツアー商品の造成・販売

＜山陽電気鉄道（株）＞

・京阪神からの誘客促進のための美術館入館券付き乗車券発行及び案内センター等での美術館入館券発行等の来館利便性向上に向けた取組及び広報連携

・姫路から阪神大阪梅田までを運行する山陽電車車両 6 両 1 編成を装飾列車「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」号とし、3.5 年間（約 1,300 日）1 日 5.5 往復の運行を行い、姫路市内だけでなく、神戸、大阪方面まで広く PR を行う。

7．文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

（事業番号１－①）

事業名	庭園アートプロジェクト
事業内容	国宝・世界文化遺産姫路城、国登録有形文化財「姫路市立美術館」、「13 点の彫刻作品が置かれた庭園」が三位一体を成す全国的に見ても稀有な絶景そのものを作品化するというコンセプトのもと、視覚芸術のみならずジャンルを横断して新たな価値を創造・発信するためのインスタレーションを展開する。 実施にあたっては、当館の企画展に合わせて夜間開園を行う。姫路市では、「姫路市観光戦略プラン」の 4 つの基本政策の一つに「滞在型観光の推進」を掲げ、宿泊数の増加の施策として、朝・夜観光の促進を図っている。令和 3 年度も姫路城を中心に、宿泊を促進する施策等（ナイトイベント、朝型観光ツアーの実施等）を展開する予定であることから、これらの施策との連携を図りながら、効果的な広報活動や集客増に取り組む。 **＜令和３年度＞** ▶ 名称：「日本の心象」展第三章「たまはがねの響」－音と光のインスタレーション 兵庫県指定伝統工芸品「明珍火箸」（鍛冶師：明珍敬三）の響を素材とした音響空間（作曲家：菅野由弘）と光のインスタレーション（美術館プロデュース）により構成。高指向性パラメトリックスピーカーを用いた立体的な音響空間を庭園に展開することで、視覚障害者にも鑑賞の可能性を開いた「見る音響」を創出。 ＊館内同時開催企画展「日本の心象～刀剣、風韻、そして海景」の第３章として位置付ける。館内展示では国指定重要文化財の刀剣を借用公開するべく現在文化庁担当課と協議中。また、書写の里・美術工芸館との連携展を行い、「刀剣乱舞」とのコラボイベントを検討中。 ▶ 開催期間：令和３年７月３日（土）～９月５日（日） （「日本の心象」展閉会後も独立したインスタレーションとして継続） **＜令和４年度～６年度＞** ▶ 名称： 令和４年度　中谷芙二子　「霧の彫刻　その１：身体との対話」（仮） 令和５年度　中谷芙二子　「霧の彫刻　その２：風景を聴く」（仮） 令和６年度　中谷芙二子　「霧の彫刻　その３：体・音・光」（仮） 世界各地で公共空間や名勝を優れた芸術作品に変換してきた「霧の彫刻家」中谷芙二子により庭園・景観をアートに変換 ▶ 開催期間：各年５月頃～（2 か月程度）
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～令和６年度

継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	毎年１回開催。インスタレーション作品の展示は2か月以上。
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ５３百万円　（内訳：３６．２百万円（姫路市予算）　１６．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号１－②）

事業名	フォーラム
事業内容	姫路市立美術館を核としたアートクラスター形成を推進し文化観光拠点としての機能強化を図るためのコア・アーティストによる公開ディスカッションや来場者が自由に参加できるフリートーク、リレーレクチャー等を実施。 フォーラムの内容は、映像や記録集にまとめてアーカイヴするとともに、美術館ホームページやYouTube等への掲載を通じて広く一般に紹介する。 コア・アーティスト：・杉本博司・日比野克彦・チームラボ・隈研吾・中谷芙二子 令和3年度　テーマ（仮）：姫路の三大建築美の真髄と可能性～姫路城、圓教寺そして美術館 令和4年度：建築と美術と宗教 令和5年度：抱一・其一からチームラボへ　江戸琳派の可能性 令和6年度：負けて勝つ城：建築美の勝利とは何か ※開催場所：姫路市立美術館、姫路城
実施主体	姫路市立美術館、姫路市（姫路城総合管理室・姫路城管理事務所）、書寫山圓教寺
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	毎年１回開催。
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ９百万円　（内訳：６．２百万円（姫路市予算）　２．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号１－③）

事業名	アーティスト・イン・レジデンス
事業内容	美術館が有する膨大なコレクションと姫路市が有する既存の文化資源（美術品・歴史・建物・芸能から町／山／海の風景まで）をテーマに、アーティストによる入念なリサーチのもと長期滞在型プロジェクトとして実施することで、クリエイティブな活動を通じた磨き上げと新たな価値の創出、観光資源化を目指すとともに、美術館理念の充実を着実に遂行することを目指す。また、公開制作により制作過程そのものを鑑賞の対象とし、共同制作も視野に入れた参加体験型のワークショッププログラムを充

実させることによって、多様で深いコミュニケーションの創出を図る。

圓教寺は「総合芸術の聖地である」（大樹玄承氏）とする寺のコンセプト自体を本文化観光事業の施策の核として位置付け、圓教寺の歴史的文化的資源（建築・美術・工芸・民俗）の継続的検証を行いつつ創造的精神史としての読み直しを図り、現代のアート表現が生成する場への展開を図る。（圓教寺をはじめとした姫路市内各地での作品制作・ワークショップ等の実施・作品展示等）

	招聘作家	テーマ（仮）
令和3年度	日比野克彦	明後日のアートの学校 ⇨ 町も海も山も寺も城も人もつながるプロジェクト
令和4年度	杉本博司	寺院空間と現代美術　特別企画公演
令和5年度	チームラボ	総合芸術の聖地にて、超主観空間を考える
令和6年度	隈研吾	21世紀版＜生き延びるためのデザイン・ワーク＞：これからの用の美

＊実施は、毎年度四季を通じて随時

＊実施場所は、姫路市立美術館と圓教寺を拠点とする

＜令和３年度企画概要＞

日比野氏の代表的なアートプロジェクトのひとつ「明後日朝顔プロジェクト」を企画の柱として圓教寺、姫路市立美術館をはじめ姫路市内各地で展開する。同プロジェクトは、2003 年に新潟で開催された「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」において、日比野氏が新潟県十日町市莇平の集落の住民たちと共に朝顔を育てることから始まった。そして 2005 年に水戸で開催された日比野氏の個展を機に初めて朝顔の種が運ばれ、2006 年には福岡や太宰府、岐阜に運ばれた。その後も朝顔の種は全国へと運ばれ、朝顔の種が人と人、人と地域、地域と地域とが繋がる大きなネットワークの橋渡しとなっている。朝顔の育成を通して、人と人・人と地域・ 地域と地域のコミュニケーションを促し、現代社会に於ける人と地域の関係の検証、人と人の関係性の中から創造されてくるカタチを芸術の根本と捉え、社会の中における芸術の機能性・多様性を表現活動として展開する。姫路市立美術館では、本プロジェクトを市内小中学校の授業にも取り入れるよう校長会に対し周知・協力依頼を行っており、併せて地域住民の参加も積極的に促すことで、姫路市立美術館のアート活動を地域社会に認知させ、令和４年度以降の企画が「オールひめじ」で一体感をもって持続的に展開できる土壌を形成することを目指す。

また、本企画では日比野氏を「校長」とした学校を開設する。教員としては多彩な分野からアーティストを招聘し、一年を通じてレクチャーやワークショップなどの講座を開いて「生徒」を募集する。姫路のあらゆる文化資源をテーマとした多様なアート表現を通じて、市外の生徒はもちろんのこと、地域の住民たちにとっても姫路の魅力を再確認する機会となり、そこで生み出された作品や表現活動の記録は姫路市の新たな文化資源となることが期待される。

実施主体	姫路市立美術館、書寫山圓教寺、姫路市（書写の里・美術工芸館）
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	毎年１回開催。各年度、四季を通じて随時
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ８４百万円　（内訳：５８百万円（姫路市予算）　２６百万円（文化観光拠点施設を

	中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号１－④）

事業名	招聘作家展
事業内容	アーティスト・イン・レジデンス招聘作家による企画展。姫路城・圓教寺・美術館を創造眼と批評眼の複眼的アプローチで捉えなおして新たな価値を創出し、五感に訴える強度のある展覧会として展開する。

	招聘作家企画展（招聘作家／テーマ）（仮）	
令和3年度	文化観光拠点施設認定記念特別展「日本の心象：刀剣、風韻、そして海景」	
	日比野克彦	明後日のアート
令和4年度	杉本博司	昨日のアート　昔の現代美術
令和5年度	チームラボ	江戸琳派再考、超主観空間が拓くボーダレスな世界
令和6年度	隈研吾	自然とはなにか－隈研吾の建築美学、22世紀へのパースペクティブ

＊令和7年度以降は、映像、彫刻、音楽、身体表現など多様なジャンルから招聘作家を検討

＊会期は、2～3か月

＊実施場所は姫路市立美術館とする

＜令和３年度＞

（１）文化観光拠点施設認定記念特別展

▶ 名称：特別展「日本の心象　刀剣、風韻、そして海景」

姫路城ゆかりの刀剣から国宝まで刀剣約 40 口の波紋の美、姫路藩の甲冑師から現代の鍛冶師・刀匠へと続く明珍家が生み出す刀剣及び「明珍火箸風鈴」（兵庫県指定伝統工芸品）がもつ造形美と音響美の世界、そして現代美術の表現で日本独自の美意識を世界に知らせる杉本博司の名作『海景』を一堂に展観。姫路独自のグローカルな価値創出を図る。

▶ 開催期間：令和３年７月３日（土）～９月５日（日）

＊ 第三章は「庭園アートプロジェクト」（事業番号１－①）として実施

▶ 関連企画：播磨の刀剣をめぐる連携企画

・姫路市立美術館特別展「日本の心象 刀剣、風韻、そして海景」との連携展として、書写の里・美術工芸館において播磨ゆかりの刀剣の展示に加え、刀剣の製作工程や技術も紹介する企画展を開催する。

（２）日比野克彦展　明後日のアート

あらゆる垣根を超えて、地域と地域、人と人がつながるアートプロジェクトを展開し、国際的に活躍する現代美術家、日比野克彦がこれまで姫路地域を含む全国各地で展開してきた「明後日朝顔プロジェクト」を軸としながら、圓教寺と美術館をプラットホームとして、城、寺、海、山、町、人を有機的にアートでつなぐとともに、その軌跡と成果を自身の造形作品とともに展観する。

▶ 開催期間：令和３年９月１８日（土）～１１月７日（日）

	＜令和４年度＞ ▶ 名称：杉本博司展「美の極点を巡る旅：姫路城、圓教寺、そして私」（仮） 写真から浄瑠璃まで、あらゆるジャンルを横断して、日本の歴史の再解釈を通じて、新たな人間観、世界観の創造を追究する現代美術家、杉本博司の眼差しを通し、姫路城・圓教寺・美術館それぞれが包含する美を検証し、姫路ゆかりの美術工芸品、作家自身の作品及びコレクションとともに姫路から世界に通じる美の道筋を辿る。 ＜令和５年度＞ ▶ 名称：チームラボ展「江戸琳派再考、超主観空間が拓くボーダレスな世界」（仮） 江戸琳派を代表する画家である酒井抱一は姫路城主・酒井忠似の実弟にして、姫路市立美術館所蔵作家のひとりである。江戸琳派の美意識を敬愛するアート・コレクティブ、チームラボの超主観空間による江戸琳派に通じるボーダレスな世界観を紹介する。チームラボについては、令和元年度に初の美術館キュレーションによる企画展「チームラボ　世界は暗闇からはじまるが、それでもやさしく美しい」の開催実績あり。 ＜令和６年度＞ ▶ 名称：隈研吾展「自然とはなにか―隈研吾の建築美学、22 世紀へのパースペクティブ」（仮） 21 世紀の建築美学、そして都市論を牽引する建築家、隈研吾が、「姫路城と圓教寺の建築美」を探り、「自然とはなにか」をテーマに自身の建築デザイン論をインスタレーションで展開するこれまでにない建築展。
実施主体	姫路市立美術館、書寫山圓教寺、姫路市（書写の里・美術工芸館）
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	毎年１回開催。
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １３９．５百万円　（内訳：９２．９百万円（姫路市予算）　４６．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号１―⑤）

事業名	招聘作家＆The Museum Collection
事業内容	招聘作家と美術館学芸員の協働により姫路市立美術館のコレクションを再検証し、招聘作家の作品とのコラボレーションも視野に入れた展開により既存の解釈や価値の更新を試みる。 ▶ 開催場所：姫路市立美術館

	＜令和３年度＞ ▶ 名称：The Museum Collection meets HIBINO 「展示室で会いましょう」 グラフィックデザイン出身であらゆるジャンルを横断する現代美術家として活躍する日比野氏は、マティスに強い影響を受けたという。日比野氏により、当館のデザインをはじめ絵画・版画・写真・彫刻等の領域を横断するコレクション展を開催。 ▶ 開催期間：令和３年１１月２０日（土）～１月１６日（日） ＜令和４年度以降＞ 令和４年度：杉本博司 令和５年度：チームラボ 令和６年度：隈研吾 ▶ 開催期間：毎年度２か月間程度
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	毎年１回開催。
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ３６百万円　（内訳：２４．６百万円（姫路市予算）　１１．４百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号１－⑥）

事業名	美術館前庭でのユニークベニューの活用
事業内容	姫路観光コンベンションビューローのＭＩＣＥ誘致活動において、アフターコンベンションの充実を図る一環で制度化している「ユニークベニューＨＩＭＥＪＩプラン」での活用に向けた積極的なＰＲを図るほか、美術館主催事業等でも様々なイベント等会場とすることで、前庭を市民・観光客にとって親しみやすい場とする。
実施主体	姫路市立美術館、姫路観光コンベンションビューロー、姫路市（観光推進課）
実施時期	既実施～令和６年度
継続見込	姫路観光コンベンションビューローの財源により継続
アウトプット目標	コンベンション誘致活動において、アフターコンベンション利用を促すための積極的なＰＲを図る。
必要資金調達方法	姫路観光コンベンションビューローが実施するコンベンション事業の予算において措置する。

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

（事業番号２－①）

事業名	解説ツール開発
事業内容	スマートフォン等を用いた文字解説と音声解説、高精細画像の表示を通じて作品の主題や由来、時代背景、展示作品と関連した館蔵品紹介などを丁寧に解説したコンテンツを提供し、子供や若い世代など専門知識の有無にかかわらずあらゆる来館者層と、姫路や日本の文化に不案内な外国人観光客等にも作品や美術館に対する理解を深めてもらえる内容とする。 また、展示作品の横に掲示したＱＲコード等から来館者が展示作品を鑑賞して思ったことや感じたことを自由にコメントできるサイトにアクセスし、作品ごとに他の来館者のコメントも参照できるアプリも開発する。 **■ 展示解説充実の方向性** **＜常設展示室＞** 寄贈作品群「國富奎三コレクション」約 30 点が展示されており、紙作品を除く油彩画及び彫刻作品 23 点は展示替えがなく１年を通じて鑑賞することができる。当コレクションは、クールベらレアリスムからモネやピサロら印象派、ドランやヴラマンクらフォーヴィスム、そしてルオーやユトリロ、マティスに至るまで、フランス近代美術の流れを各々の時代の代表的画家の作品により体系的に示している。しかしながら、現在の展示では作品の基本情報を記したキャプションを主とした解説となっていることから、個々の作品の主題や特徴はもとより、当コレクション全体がもつ美術史的な価値や意義も伝え、当展示室を巡ることでフランス近代美術史の流れも学べることのできる解説を目指す。 **＜コレクションギャラリー＞** 姫路市立美術館のコレクション約 4,600 点のなかから年に 4～5 回程度のコレクション展を開催している。一回あたりの展示可能点数は 10 点～20 点程度（展示テーマや作品の大きさによる）と限られているが、当館のコレクションの魅力と意義を伝える貴重な機会である。これまでコレクションギャラリー展示においては、基本的に作品の基本情報を記したキャプションと作家や作品の簡単な情報を記したハンドアウトを配布するのみであり、年に１回、教育普及プログラムとして郷土の画家・作品をテーマにした展示で詳細な解説パンフレットを制作する程度であったが、今後は全ての展示において詳細な作家・作品情報を整理して解説を作成し、作品管理データベースと紐づけた一元的な記録管理を行うことで、更なる解説の充実に向けた応用の環境を整える。 **＜庭園＞** フランス近代彫刻の大家ブールデルや郷土の彫刻家などによる 13 点の彫刻作品が展示されている。これら彫刻作品については、作者・作品名等基本情報のみの表示となっているため、来館者が作品について理解を深めるには十分とはいえない状況にある。屋外という設置環境を踏まえ、QR コードの掲示による解説の配信を行う。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続

アウトプット目標	令和３年度：常設展示作品・コレクションギャラリー展示作品について解説制作、QR コード等を用いた鑑賞ツールの仕様検討 令和４年度～：開発・運用
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ４．６百万円　（内訳：１．８百万円（姫路市予算）　２．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号２－②）

事業名	多言語解説作成
事業内容	国登録有形文化財である姫路市立美術館の歴史的文化的価値や館蔵品、展示についての解説等を多言語化する。多言語化にあたっては、姫路市への外国人来訪者割合の傾向に従い、中（繁体・簡体）、仏、西、英に優先的に取り組むこととする。 なお、多言語解説の内容は原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従う。 **■ 多言語解説作成の方向性** **＜収蔵品＞** 常設展示されている「國富奎三コレクション」及び庭園彫刻の作家・作品・展示解説を最優先に英語訳を行う。コレクションギャラリー展示作品については、恒常的な基本情報である作家・作品解説の英語訳を優先的に行う。英語訳が完成した解説から順次、その他言語への翻訳を進めていく。 **＜オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト＞** プロジェクト全体の趣旨・目的及び各事業の概要、姫路城・圓教寺等関連する文化資源の歴史や価値について解説したプレスリリース（企画５本分）を作成し、英語訳を行う。このプレスリリースは姫路市立美術館に特設ページを開設して掲載し、併せて各種 SNS でリンクを張った英語による情報発信を行う。同作業にはコレクションの磨き上げ「招聘作家&The Collection」も含まれる。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～令和５年度
継続見込	姫路市予算により増刷を行い継続活用
アウトプット目標	＜収蔵品＞ 令和３年度：１か国後作成：英語 令和４年度：２か国後作成：中国語（繁体・簡体）フランス語 令和５年度：２か国後作成：スペイン語・韓国語 ＜オールひめじ・アーツ&ライフ・プロジェクト＞ 令和３年度～令和６年度　企画５本分のプレスリリース（英語）
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ８．３百万円　（内訳：２．８百万円（姫路市予算）　５．５百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等によ

	る対応について検討する。

（事業番号２－③）

事業名	姫路城大天守ほか４棟活用環境強化事業及び周辺施設案内強化
事業内容	日本の城に対する歴史的、文化的知識が少ない外国人観光客等に対して、更に、姫路城の理解促進につながるよう拡充した城内常設・特別展示（令和２年度実施）とともに、姫路城大手門及び入城口に新たに設置したデジタルサイネージ等により姫路市立美術館の特別企画展等に関する広報を行うことや、姫路市立美術館に最寄りの出入り口である喜斎門周辺に案内看板等を設置するなどの導線案内を整備するほか、姫路城のかつての城下町マップに周辺施設の位置関係を示すことで、国内・海外からの姫路城来訪者が姫路市立美術館を含めた姫路城周辺エリアの歴史等について理解を深める展示等を行う。
実施主体	姫路市（姫路城管理事務所）
実施時期	令和２年度～
継続見込	姫路城内の常設・特別展示拡充は令和２年度で完了 周辺施設案内強化は本計画期間終了後、制度導入の効果を踏まえて継続を検討
アウトプット目標	令和３年度～：常設展示、コレクションギャラリー展示、特別企画展示（拠点計画事業含む）について、通年の入場口でのチラシの配布及びデジタルサイネージ広報
必要資金調達方法	（令和２年度　１３３百万円（５８百万円（姫路市予算）　７５百万円（文化資源活用事業費補助金（文化庁）） 令和３年度～　広報に係る現計予算（姫路市）の範囲内で対応

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号３－①）

事業名	姫路城入城券の半券提示による特別企画展の観覧料割引制度の導入
事業内容	本計画のターゲットの一つである、姫路城の入城者を美術館へ誘客する方策として、特別企画展の開催時に、姫路城の入城券の半券を提示いただいた方には、団体料金割引を適用することとし、姫路城からの誘客を図っていく。 また、半券提示者に対して団体割引制度を適用することで、姫路城からの来館者を把握することができる。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	本計画期間終了後、制度導入の効果を踏まえて継続を検討
アウトプット目標	特別企画展来館者のうち3%の半券割引実績
必要資金調達方法	なし

（事業番号３－②）

事業名	姫路おもてなしクーポンキャンペーン
事業内容	姫路観光コンベンションビューローでは、スマートフォンで手軽に市内の観光関連

	施設、飲食店、小売店（土産）、体験施設等の特典を受けることができるマップシステムを運用している。このシステムに美術館が参画することにより、新たな来館を促進するとともに来館前後の飲食・市内周遊など一連の観光行動の利便に寄与する。
実施主体	姫路観光コンベンションビューロー
実施時期	令和２年度～令和６年度
継続見込	姫路観光コンベンションビューローの予算により継続
アウトプット目標	・年間を通じた美術館ホールでのデジタルサイネージ放映 ・おもてなしクーポンの特典利用件数　年間６０件以上
必要資金調達方法	姫路観光コンベンションビューローが実施する姫路おもてなしクーポンキャンペーンの事業予算において措置する

（事業番号３－③）

事業名	旅行会社向けクーポン券の発行
事業内容	団体割引等が適用されるクーポン契約を旅行会社と締結することで、姫路市立美術館を組み込んだツアー造成を促進するとともに、既にクーポンを発行している姫路城及び好古園との周遊ツアー造成促進を図る。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	姫路市予算により継続
アウトプット目標	毎年３社と契約締結
必要資金調達方法	０．２百万円　（内訳：０．２百万円（姫路市予算））

（事業番号３－④）

事業名	市内宿泊施設での美術館前売り券販売
事業内容	姫路市立美術館の企画展等の前売券を市内宿泊施設で販売、あるいは割引券（団体割引）を宿泊プランに組み込んで配布してもらうことで、観光客の来館を促す。
実施主体	姫路市立美術館、姫路観光コンベンションビューロー
実施時期	令和３年度～
継続見込	姫路市予算により継続
アウトプット目標	市内宿泊施設３件との契約
必要資金調達方法	０．２百万円（内訳：０．２百万円（姫路市予算））

（事業番号３－⑤）

事業名	入館券セット乗車券の販売
事業内容	鉄道（山陽・阪神・阪急・神鉄線）乗車券と美術館入館券のセット券を販売する。
実施主体	山陽電気鉄道株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	利用状況等を踏まえて継続を検討（姫路市予算等による）

アウトプット目標	年間通じて販売を行う
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ４百万円　（内訳：１．６百万円（自己資金）　２．４百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金等による対応について検討する。

（事業番号３－⑥）

事業名	山陽電車案内センター等での美術館入館券の販売
事業内容	美術館入館券を山陽電鉄ご案内センターほかコンビニで販売する。
実施主体	山陽電気鉄道株式会社
実施時期	令和３年度～
継続見込	あり
アウトプット目標	令和３年度　山陽電車ご案内センター、コンビニ１社 令和４年度以降　コンビニ２社追加
必要資金調達方法	なし

（事業番号３－⑦）

事業名	バス周遊のための企画乗車券の販売
事業内容	姫路市立美術館・姫路城・書寫山圓教寺を（２日間）周遊できるお得なチケットを新たに販売。美術館の企画に合わせた乗車券デザインのほか、関連路線でのアートバスの運行や、西日本初導入のＦＣＶ（燃料電池バス）車両の活用を検討。
実施主体	神姫バス株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	利用状況等を踏まえてルート等の見直しを含め継続を検討（姫路市予算等による）
アウトプット目標	企画乗車券 3,000 枚の発行
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ９百万円　（内訳：乗車券制作費４百万円：２百万円（自己資金）　２百万円（既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業補助金（観光庁）、アートバス運行費５百万円：１．７百万円（自己資金）　３．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金等による対応について検討する。

（事業番号３－⑧）

事業名	姫路城プラスワン　観光拠点としての姫路市立美術館集客促進事業
事業内容	オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトでの企画や美術館での特別解説会を組み込んだツアーなど、姫路市立美術館のイベントに合わせ、京阪神からの日帰りをメインとして企画造成する。姫路城に来られる観光客も美術館へと足を向けるように、

	神姫観光のHP、顧客へのDMによりイベントのPRと近代建築部としても美しい姫路市立美術館の魅力をPRする。 ＜例＞ 大阪・神戸　→　姫路城（10:00～）12:00・・昼食・・　姫路美術館（オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトイベント）（14:00～16:00）→　神戸・大阪
実施主体	神姫観光株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	自社ツアーとして継続実施見込む
アウトプット目標	30名×10設定　参加人員300名/1年 ターゲット　京阪神
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １６百万円　（内訳：５．６百万円（参加料）　１０．４百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金等による対応について検討する。

（事業番号３－⑨）

事業名	姫路城プラスワン　県外現代美術ファン集客促進　募集型企画ツアーの造成事業
事業内容	全国のバス系旅行会社と共同して、オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトでの企画やアーティストや学芸員による美術館での特別解説会を組み込んだ特別ツアーを造成し、県外の現代アートファンへPRする。 日比野克彦氏をメイン・アーティストとする令和３年度はとくに、日比野氏の出身地である岐阜、「明後日朝顔プロジェクト」の発祥の地である新潟や水戸、氏が深く関わっている瀬戸内国際芸術祭の開催地である四国エリアにターゲットを絞り地域と連携を目指す。 ＜例＞ 岐阜　→　姫路市立美術館　オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト　メイン・アーティスト講演会など（11:00～14:30）・・姫路城散策（14:30～16:00　→　岐阜 高松　→　姫路市立美術館　オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト　メイン・アーティスト講演会など（11:00～14:30）・・姫路城散策（14:30～16:00　→　高松 岡山　→　姫路市立美術館　オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト　メイン・アーティスト講演会など（11:00～14:30）・・姫路城散策（14:30～16:00　→　岡山 茨木　⇒　神戸空港　→　姫路・神戸泊 姫路　→　姫路城散策　9:00～11:00　・・　姫路市立美術館　オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト　メイン・アーティスト講演会など（11:00～14:30）→　神戸空港　⇒　茨城

実施主体	神姫観光株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	バス系旅行会社共同企画として継続実施
アウトプット目標	1日　5台×2日設定　参加人員300名 ターゲット　県外顧客
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ２０百万円　（内訳：６．８百万円（参加料）　１３．２百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金等による対応について検討する。

（事業番号３－⑩）

事業名	姫路城プラスワン　YUI PRIMAで行く美術館の魅力再発見　特別な体験
事業内容	特別仕様の豪華車両「YUI PRIMA」による少人数を対象とした高品質な特別な体験ツアーを造成する。メインルートは、オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトの舞台となる姫路市立美術館・姫路城・書寫山圓教寺と、地中美術館（香川県）などの瀬戸内アートスポット。日常では経験できない特別な体験ツアーを企画しメディア等を活用し姫路市立美術館の宣伝広報につなげる。 リピート性の高い富裕層美術ファンに姫路市立美術館の魅力を夜のイベントなど特別な体験を通じてPRする。 ＜例＞ 大阪・神戸　→　高松港　→　直島　地中美術館（11:00～14:00）　→　高松港　→ →　姫路城・姫路美術館（特別ナイトイベント17:30～19:30）→　姫路泊 姫路　→　オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト（10:00～12:00）→ 昼食　→　書写山圓教寺（14:00～16:00）　→　神戸・大阪
実施主体	神姫観光株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	自社ツアーにて集客
アウトプット目標	15名×2設定 ターゲット　高品質美術鑑賞ファン 新聞×報道番組取材による姫路美術館宣伝広報
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １４百万円　（内訳：４．８百万円（参加料）　９．２百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号３－⑪）

事業名	着地型旅行商品の造成
事業内容	着地型体験プログラム「もっと姫路たび」において、オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクトの招聘アーティストや姫路市立美術館館長とのワークショップ、ナ

	イトツアー、鑑賞ノウハウ教室といった美術館にちなんだ体験メニューを造成する。 　また、美術館来訪者に対し、姫路駅前から東西南北に広がる商店街、姫路城周辺の地域観光資源やまちなかアートなどを組み入れたモデルコース等を設定し、まちなか回遊の仕組みを構築する。
実施主体	姫路観光コンベンションビューロー、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	姫路観光コンベンションビューローの予算により継続
アウトプット目標	商品開発数　１プログラム以上 ／　モデルコースの設定５テーマ以上
必要資金調達方法	姫路観光コンベンションビューローが実施するもっと姫路たびの事業予算において措置する

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号４－①）

事業名	姫路城東休憩施設の整備
事業内容	姫路城と姫路城周辺の施設を結び付け、周遊性を向上させ、エリア全体の魅力をアップするための機能を持つ施設として、姫路市立美術館に隣接して休憩施設を整備する。 　休憩施設に期待する機能は以下のとおりとする。 　① 姫路城の景観を楽しむ機能 　本市の代表的な眺望地点は、平成６年に姫路城への眺望が優れた１０箇所を選定した「世界遺産姫路城十景」であり、市民に親しまれている。中曲輪内には「姫路市立美術館」、「三の丸広場」、「城見台公園」、「シロトピア記念公園」の４つがあり、それぞれ特徴的な姫路城の姿を見ることができる。これらのポイントのように「城の見える公園」ならではの景観が楽しめる場所として整備する。 　② 飲食等を楽しむ機能 　中曲輪内において、飲食機能を持った休憩所は姫路城南側に集中しているため、姫路城東側における飲食施設の整備が望まれている。 　カフェ・飲食機能を持つ休憩施設として整備する。 　③ 情報発信機能 　現在、姫路城に関する情報発信は、JR 姫路駅の観光なびポート及び入城口の資料室で行っている。姫路城に関する情報と周遊ルートや周辺観光施設に関する情報発信機能を付与する。姫路市立美術館等と連携したギャラリー機能を持たせ、休憩施設利用者を隣接する美術館へ誘導することも検討する。
実施主体	姫路市（姫路城総合管理室）
実施時期	令和２年度～７年度
継続見込	姫路市予算等にて措置
アウトプット目標	令和２年度：基本構想策定業務 令和３年度：基本計画策定、公募型社会実験（トライアルサウンディング）実施、文化庁等協議 令和４年度：基本設計、文化庁等協議、発掘調査 令和５年度：実施設計、文化庁本申請（国文審） 　※運営事業者選定支援業務（令和４年度もしくは令和５年度）

	令和６年度：整備工事 令和７年度：運営開始
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １７５百万円（姫路市予算） ※建設費用のみ計上。（その他、業務委託費、設計費等は含んでいません。）

（事業番号４－②）

事業名	ミュージアムショップでの兵庫県伝統工芸品の販売
事業内容	地域の伝統工芸品の展示と保存、また伝統文化を学び体験できる施設である姫路市書写の里・美術工芸館との連携により、「姫路はりこ」「姫路こま」、地域の工芸品である「姫山人形」等の工芸品を、姫路市立美術館のミュージアムショップでも販売し、姫路の伝統工芸品の周知や売上額増を図る。
実施主体	姫路市立美術館、姫路市（書写の里・美術工芸館）
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	あり
アウトプット目標	毎年度 2 品目以上の取扱い
必要資金 調達方法	なし

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号５－①）

事業名	姫路観光コンベンションビューローとの広報連携
事業内容	美術館の企画展等情報について、姫路観光コンベンションビューローがもつ民間観光事業者とのネットワーク及び広報媒体と緊密な連携を図った広報連携を行う。 ①他地域 DMO 等（ＪＮＴＯ、関西観光本部、ひょうご観光本部、神戸観光局、せとうちＤＭＯ等）と連携した観光客誘致活動 ② 旅行会社向け商談会での PR ③ 全国旅行会社への資料送付 ④ 広報媒体の活用（ナビポート、インスタグラム、YouTube、デジタルサイネージ）
実施主体	姫路市・姫路観光コンベンションビューロー、姫路市（観光推進課）
実施時期	令和３年度～令和６年度
継続見込	各実施主体の自主財源により継続
アウトプット目標	HP「ひめのみち」メルマガ：約 700 件
必要資金 調達方法	姫路観光コンベンションビューローが実施する観光プロモーションの事業予算において措置する。

（事業番号５－②）

事業名	展覧会広報強化
事業内容	姫路市立美術館が開催する企画展等について、アート業界につながりの深いＰＲ会社に広報業務を委託し、全国的な周知宣伝を行う。

	＊令和 2 年度より既に委託を実施。企画展のプレス向け内覧会や会期中の取材数等が例年の約 2 倍以上まで増加していることから、拠点計画の企画展等事業においても引き続き実施する。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和２年度～令和６年度
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	令和３年度～６年度 ＜媒体＞ 一般紙、地方紙、スポーツ紙、夕刊紙、専門誌、雑誌、テレビ、ラジオ、フリーペーパー、WEB、制作会社・ライター ＜アプローチ先件数＞ 関西圏：500 件以上 首都圏：400 件以上
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 ９．６百万円　（内訳：４．２百万円（姫路市予算）　５．４百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号５－③）

事業名	アート列車の運行
事業内容	姫路から阪神大阪梅田までを運行する山陽電車車両 6 両 1 編成を装飾列車「オールひめじ・アーツ＆ライフ・プロジェクト」号とし、3.5 年間（約 1,300 日）1 日 5.5 往復の運行を行い、姫路市内だけでなく、神戸、大阪方面まで広く PR を行う。
実施主体	山陽電気鉄道株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	効果を踏まえて継続を検討（姫路市予算等による）
アウトプット目標	テーマに合わせたＰＲステッカーの掲出
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １０百万円　（内訳：３．６百万円（自己資金）　６．４百万円（博物館を中核とした文化クラスター推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号５－④）

事業名	山陽電車発行沿線情報誌への記事掲載
事業内容	山陽電鉄全駅及び他社鉄道会社の主要駅に配架される山陽沿線情報誌『エスコート』（毎月発行）へのイベント情報掲載。
実施主体	山陽電気鉄道株式会社、姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	効果を踏まえて継続を検討（姫路市予算等による）

アウトプット目標	Ａ４（見開きＡ３）２ページを毎年１回以上掲載する。
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １．６百万円　（内訳：０．５６百万円（自己資金）　１．０４百万円（博物館を中核とした文化クラスター推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号６－①）

事業名	マスタープランに基づく美術館機能強化
事業内容	開館 50 周年を迎える 2033 年に向けて、姫路市立美術館が文化観光拠点施設として担うべき社会的使命や姫路市全体の施策の中で果たすべき役割といったヴィジョンを明確にした上で、そのヴィジョンの実現のために必要な美術館運営及び施設設備の在り方等について、現状を踏まえた課題の抽出と取り組むべき事項を整理した中長期計画（マスタープラン）を策定し、新たな文化芸術創造活動の場を支える人材としてのコーディネーターやプロデューサーの招聘・育成・雇用、通訳案内士等ガイド人材の配置から、公開承認施設への登録を視野に入れた施設設備の更新・拡充、美術館及び美術館周辺エリアにおける利便性向上まで、ソフト・ハード両面から総合的な機能強化を推進する。
実施主体	姫路市立美術館
実施時期	令和３年度～
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	令和３年度　　マスタープラン策定 令和４年度～　マスタープランに基づく取組推進
必要資金 調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １８．５百万円　（内訳：１５．５百万円（姫路市予算）　３百万円（博物館を中核とした文化クラスター推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

（事業番号６－②）

事業名	美術館内及び庭園 Wi-Fi 環境整備
事業内容	現在、姫路市立美術館内及び敷地内には Wi-Fi 環境がないため、より深い作品理解に資するための展示解説ツール（事業番号２－①）の導入や、庭園を人々が集う場として活用していくための環境づくり（事業番号１－①）に向けた Wi-Fi の整備を行う。整備にあたっては、観光推進課及び産業振興課が既に整備を進めている姫路駅周辺や中心市街地及び姫路城内と一体的な Wi-Fi サービスの運用体制を構築するものとする。
実施主体	姫路市立美術館、姫路市（観光推進課、産業振興課）
実施時期	＜観光推進課・産業振興課整備分＞ 平成 30 年度：6 箇所（大手前通り１箇所、商店街内 5 箇所） 令和元年度：16 箇所（商店街内 16 箇所）

	令和２年度：１箇所（姫路駅南） ＜美術館整備分＞ 令和２年度～３年度：美術館内及び庭園整備 令和４年度～令和６年度：運用
継続見込	姫路市予算等により継続
アウトプット目標	令和３～４年度：館内及び庭園の WI-FI 環境整備（姫路駅～姫路城の既存 Wi-Fi 環境との接続） 令和４年度～：Wi-Fi 環境維持管理
必要資金調達方法	Ｒ３～Ｒ６年度合計 １２百万円　（内訳：４．１百万円（姫路市予算）　７．９百万円（博物館を中核とした文化クラスター推進事業（文化庁）） ＊国の補助事業等について、記載のとおり調達できない場合には、姫路市予算等による対応について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第　　条（　　法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	なし
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

（留意事項）

・「事業番号・事業名」には、4-1 の事業番号及び事業名を記載してください。

・「必要とする特例根拠」には、特例を受けようとする文化観光推進法の条文を抜粋し、「〇〇〇法の特例」と（　　）内に記入してください。

・「特例措置を受けようとする事業内容」には、以下のいずれかの事業の概要を記入するとともに、当該事業の内容を特例措置との関係が分かるよう簡潔に記入してください。

・文化資源保存活用施設に来訪する国内外からの観光旅客を対象とする共通乗車船券に係る運賃又は料金の割引を行う事業

・国土交通省関係文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則（令和２年国土交通省令第 47 号。以下「国交省令」という。）第２条に規定する事業

・国交省令第３条に規定する事業

・国交省令第４条に規定する事業

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和３年度	１４４．３５百万円	事業番号１－１	８百万円	４．３百万円（姫路市予算）　３．７百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－２	１．５百万円	０．８百万円（姫路市予算）　０．７百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－３	９百万円	４．８百万円（姫路市予算）　４．２百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－４	３４．５百万円	１８．４百万円（姫路市予算）　１６．１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－５	６百万円	３．２百万円（姫路市予算）　２．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－６	—	—
		事業番号２－１	１．６百万円	０．６百万円（姫路市予算）　１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－２	４．７百万円	１．６百万円（姫路市予算）　３．１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－３	—	—
		事業番号３－１	—	—
		事業番号３－２	—	—
		事業番号３－３	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－４	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－５	１百万円	０．４百万円（自己資金）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－６	—	—

		事業番号３－７	３百万円	１．１７５百万円（自己資金）　０．５百万円（既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業補助金（観光庁））１．３２５百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－８	４百万円	１．４百万円（参加料）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－９	５百万円	１．７百万円（参加料）　３．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－10	３．５百万円	１．２百万円（参加料）　２．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－11	―	―
		事業番号４－１	４３．７５百万円	４３．７５百万円（姫路市予算）
		事業番号４－２	―	―
		事業番号５－１	―	―
		事業番号５－２	２．４百万円	１．８百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－３	１．６百万円	０．６百万円（自己資金）　１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－４	０．４百万円	０．１４百万円（自己資金）　０．２６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－１	１４百万円	１４百万円（姫路市予算）
		事業番号６－２	―	―
令和４年度	１６７．９５百万円	事業番号１－１	２０百万円	１４百万円（姫路市予算）　６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－２	２百万円	１．４百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－３	２５百万円	１７．５百万円（姫路市予算）　７．５百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））

		事業番号１－４	３５百万円	２４．５百万円（姫路市予算）　１０．５百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－５	１０百万円	７百万円（姫路市予算）　３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－６	―	―
		事業番号２－１	１百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－２	１．２百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－３	―	―
		事業番号３－１	―	―
		事業番号３－２	―	―
		事業番号３－３	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－４	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－５	１百万円	０．４百万円（自己資金）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－６	―	―
		事業番号３－７	２百万円	０．８４百万円（自己資金）　０．５百万円（既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業補助金（観光庁））０．６６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－８	４百万円	１．４百万円（参加料）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－９	５百万円	１．７百万円（参加料）　３．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－10	３．５百万円	１．２百万円（参加料）　２．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－11	―	―
		事業番号４－１	４３．７５	４３．７５百万円（姫路市予算）

			百万円	
		事業番号４－２	―	―
		事業番号５－１	―	―
		事業番号５－２	２．４百万円	１．８百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－３	２．８百万円	１百万円（自己資金）　１．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－４	０．４百万円	０．１４百万円（自己資金）　０．２６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－１	１．５百万円	０．５百万円（姫路市予算）　１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－２	７百万円	２．４百万円（姫路市予算）　４．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
令和５年度	１６９．４５百万円	事業番号１－１	１５百万円	１０．５百万円（姫路市予算）　４．５百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－２	２．５百万円	１．８百万円（姫路市予算）　０．７百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－３	３０百万円	２１百万円（姫路市予算）　９百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－４	４０百万円	２８百万円（姫路市予算）　１２百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－５	１０百万円	７百万円（姫路市予算）　３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－６	―	―
		事業番号２－１	１百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－２	１．２百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））

		事業番号２－３	―	―
		事業番号３－１	―	―
		事業番号３－２	―	―
		事業番号３－３	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－４	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－５	１百万円	０．４百万円（自己資金）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－６	―	―
		事業番号３－７	２百万円	０．８４百万円（自己資金）　０．５百万円（既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業補助金（観光庁））０．６６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－８	４百万円	１．４百万円（参加料）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－９	５百万円	１．７百万円（参加料）　３．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－10	３．５百万円	１．２百万円（参加料）　２．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－11	―	―
		事業番号４－１	４３．７５百万円	４３．７５百万円（姫路市予算）
		事業番号４－２	―	―
		事業番号５－１	―	―
		事業番号５－２	２．４百万円	１．８百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－３	２．８百万円	１百万円（自己資金）　１．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－４	０．４百万円	０．１４百万円（自己資金）　０．２６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））

		事業番号６－１	１．５百万円	０．５百万円（姫路市予算）　１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－２	３百万円	１百万円（姫路市予算）　２百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
令和６年度	１４３．９５百万円	事業番号１－１	１０百万円	７．４百万円（姫路市予算）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－２	３百万円	２．２百万円（姫路市予算）　０．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－３	２０百万円	１４．７百万円（姫路市予算）　５．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－４	３０百万円	２２百万円（姫路市予算）　８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－５	１０百万円	７．４百万円（姫路市予算）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号１－６	－	—
		事業番号２－１	１百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－２	１．２百万円	０．４百万円（姫路市予算）　０．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号２－３	－	—
		事業番号３－１	－	—
		事業番号３－２	－	—
		事業番号３－３	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－４	０．２百万円	０．２百万円（姫路市予算）
		事業番号３－５	１百万円	０．４百万円（自己資金）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－６	－	—
		事業番号３－７	２百万円	０．８４百万円（自己資金）　０．５百万円（既存観光拠点の再生・高

				付加価値化推進事業補助金（観光庁）） ０．６６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－８	４百万円	１．４百万円（参加料）　２．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－９	５百万円	１．７百万円（参加料）　３．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－10	３．５百万円	１．２百万円（参加料）　２．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号３－11	－	—
		事業番号４－１	４３．７５百万円	４３．７５百万円（姫路市予算）
		事業番号４－２	－	—
		事業番号５－１	－	—
		事業番号５－２	２．４百万円	１．８百万円（姫路市予算）　０．６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－３	２．８百万円	１百万円（自己資金）　１．８百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号５－４	０．４百万円	０．１４百万円（自己資金）　０．２６百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－１	１．５百万円	０．５百万円（姫路市予算）　１百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
		事業番号６－２	２百万円	０．７百万円（姫路市予算）　１．３百万円（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業（文化庁））
合計	６２５．７百万円			

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

また、既に採択された事業であれば、その旨を明記すること。

８．計画期間

令和３年度～令和６年度